

東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事 令和8年度

東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事

I 工 事 概 要

1. 工事場所

東京都文京区弥生 2－1 1－1 6（東京大学構内）

2. 完成期限

令和 8年 11月 30日（月）

3. 建物概要

建 物 名 称	超高压電子顕微鏡室			
工 種	改 修			
構 造	R C造			
階 数	地上 2階 地下 1階			
建築基準法による	建築面積 (㎡)	219. 50		
	延べ面積 (㎡)	642. 50		
消防法施行令別表第一の区分	—			
改 修 面 積 （㎡）	642. 50			
備 考				

4. 工事種目

○ 印の付いたものが対象工事種目

建物別及び屋外	工 事 種 別			
工 事 種 目	超高压電子顕微鏡室			
○ 2 仮設工事	一 式			
・ 3 防水改修工事				
・ 4 外壁改修工事				
○ 5 建具改修工事	一 式			
○ 6 内装改修工事	一 式			
○ 7 塗装改修工事	一 式			
・ 8 耐震改修工事				
○ 9 環境配慮改修工事	一 式			
・ プール改修工事				
・ 電気設備工事				
・ 機械設備工事				
・ 8-8 土工事及び地業工事				

5. 指定部分

・ 無 ・ 有 対象部分（指定部分工期 令和 年 月 日（ 曜日）

6. 概成工期

・ 無 ・ 有 令和 年 月 日（ 曜日） (1. 2. 1) [1. 2. 1]

II 工 事 仕 様

1. 共通仕様

(1) 文部科学省発注工事請負等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、図面 17 枚及び本特記仕様書 5 枚によるほか、下記仕様書等のうち、○印の付いたものを適用する。

・ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)(以下「標準仕様書」という。)

・ 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)(以下「改修標準仕様書」という。)

・ 文部科学省建築工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)

・ 文部科学省建築改修工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科改修仕様書」という。)

・ 工事写真撮影要領(令和元年7月)

・ 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)

・ 建築工事標準詳細図(令和4年版)

・

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。

なお、電気設備工事の特記仕様書は（ ）、機械設備工事の特記仕様書は（ ）による。

2. 特記仕様

(1) 本特記仕様書の表記

1) 項目は、○ 印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。

○ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。

○ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の [] 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の (〔 〕) 内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の [[]] 内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

4) ㊤ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。

章

1 各章共通事項

項 目

特 記 事 項

○ 環境への配慮

(1. 4. 1) [1. 4. 1]

建築物内部に使用する材料等とは、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。

① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板精屑材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。

② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。

③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-n-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性を除く）が添加されていない材料を使用する。

④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

○ 材料の品質等

(1. 4. 2) [1. 4. 2]

(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

(2) 製品名が記載された材料は、当該製品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。

(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

(4) 本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製造所等は、以下に指定する事項を満たすものとし、その証明となる資料を監督職員に提出して承諾を受ける。

ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。

・ 品質及び性能に関する試験データを整備していること。

・ 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。

・ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

・ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

・ 安定的な供給が可能であること。

・ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

(5) 製造所等に関する資料の提出を求める材料

○ 石綿含有建材の調査

[1. 5. 1]

事前調査
工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
貸与資料（ ）
・ 分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソファイト、クリソタイル、クロシドライト、トシモライト
分析方法

材料名	定性分析方法 (JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	定量分析方法 (JIS A 1481-3) または (JIS A 1481-4)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)

サンプル数 1箇所あたり3サンプル
採取箇所
・ 図示による ・

○ 化学物質の濃度測定

(1. 5. 9) [1. 7. 9]

(1) 施工完了後、引渡前に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン等の濃度を測定し、測定結果を監督職員に報告する。

測定対象化学物質	指針値（両単位の変換率、25℃の場合による。）
ホルムアルデヒド	100 μg/m ³ (0. 08ppm) 以下
トルエン	260 μg/m ³ (0. 07ppm) 以下
キシレン	200 μg/m ³ (0. 05ppm) 以下
エチルベンゼン	3800 μg/m ³ (0. 88ppm) 以下
スチレン	220 μg/m ³ (0. 05ppm) 以下

(2) 測定対象室及び測定箇所数は以下表による。

棟名称	階	室名	採取本数

(3) 測定方法は、（・ 吸引方式（アクティブ法）・ 拡散方式（パッシブ法））により行う。

(4) 文部科学省の「学校環境衛生基準」に基づき、採取は室内の温度が高い時期に行い、吸引方式では30分間で2回以上、拡散方式では8時間以上行う。

(5) 測定結果が指針値を超えていた場合は、発生源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定し、基準値以下であることを確認してから引渡しを行う。

○ 完成時の提出図書

(1. 7. 1～3) [1. 9. 1～3]

次の図書を監督職員に提出する。また、それらを本工事事務所に提出するための権利については、発注者に委譲する。

1) 完成図

○ CADデータ（電子納品）及び電子データ（PDF形式）

・ A3版原図 _____ 部

・ A1版原図 _____ 部

・ A3複写図（製本） _____ 部

・ A1複写図（製本） _____ 部

2) 保全に関する資料

・ 電子データ（PDF形式） _____ 部

・ A4ファイル綴じ _____ 部

3) 工事写真（「工事写真撮影要領」による。）

○ 原本（電子媒体）

・ アルバム（紙又は電子媒体） _____ 部

4) 完成写真
工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画素数及び画質等	撮影者
外観正面（ ）箇所	・ 電子データ（JPEGフルカラー・圧縮率1/4程度） ・ カラー印刷紙キャビネ判 M4アルバム綴じ（注） ・ カラー木製パネル半切（324×400mm）		4500×3000ピクセル以上で画像補正を行ったもの	建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者
上記と異なる外部： 箇所 内部： 箇所	・ カラー印刷紙キャビネ判 ・ カラー印刷紙キャビネ判 M4アルバム綴じ（注）			
外部： 箇所 内部： 箇所 程度	・ 電子データ（JPEGフルカラー） ・ カラー印刷紙キャビネ判 M4アルバム綴じ		1280×960ピクセル以上かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意

(注) のアルバムは併せて作成する。

電子納品は次の規定に従うものとする。
1) 貸与する設計図のCADデータは以下による。

着作者名： _____
ファイル形式： _____
貸与条件： 貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用しないこと。
i) 提出された写真は、国が行う事務及び国が認めた用途に関して、無償で利用することができるものとする。この際、著作者名を表示しないこと及びその利用に必要な範囲で改変を行うことができるものとする。
ii) 受注者及び撮影者等は、撮影時に取得した全ての写真（提出していないものを含む。）及びその改変物、複製物を公表、閲覧、譲渡その他一切の方法により第三者に使用させてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を受けた場合は、この限りではない。

2) 完成写真の撮影に関する著作者の権利等については次のi) 及びii) によることとし、受注者は撮影者等との契約に当たってもそれらの承諾を条件とする。
i) 提出された写真は、国が行う事務及び国が認めた用途に関して、無償で利用することができるものとする。この際、著作者名を表示しないこと及びその利用に必要な範囲で改変を行うことができるものとする。
ii) 受注者及び撮影者等は、撮影時に取得した全ての写真（提出していないものを含む。）及びその改変物、複製物を公表、閲覧、譲渡その他一切の方法により第三者に使用させてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を受けた場合は、この限りではない。

3) 電子納品の対象は上記によるほか、監督職員と受注者で協議を行う。
4) 電子成果品は、提出前にウイルス対策を実施したうえで監督職員に提出する。
5) 提出方法及びファイル形式は以下による。

電子媒体： CD-R又はDVD-R
CADデータ： JWW、DXF及びPDF
上記の他、監督職員が認めた形式

・ 監督職員と協議する。

○ 他工事又は他工程との取合い

2 仮設工事

○ 足場等

[2. 2. 1] [表 2. 2. 1]

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

外部足場
○ 設置する
(設置範囲 ・ 工事に必要な範囲 ・ 図示による ・)
・ 設置しない
メッシュシート
○ 設置する
(設置範囲 ・ 工事に必要な範囲 ・ 図示による ・)
・ 設置しない
内部足場
○ 設置する
(※ 脚立、足場板等 ・)
・ 設置しない
・ 材料、撤去材等の運搬方法
種別（・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ）
C種： 利用可能なエレベーター（ ・ 図示による ・ ）
D種： 利用可能な階段（ ・ 図示による ・ ）

養生方法等 [2. 3. 1]
○ 既存部分
養生方法（※ ビニルシート、合板 ・ ）
・ 既存家具、既存設備等
養生方法（※ ビニルシート等 ・ ）
・ 既存ブラインド、カーテン等
養生方法（ ・ ビニルシート等 ・ ）
保管場所（ ・ 図示による ・ ）
・ 固定された備品、机、ロッカー等の移動
・ 図示による ・
既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

○ 既存部分の養生

○ 施工数量調査

[1. 6. 2. 3]

調査範囲
・ 図示による ・
調査方法
・ 図示による ・
既存部分の破壊を行った場合の補修方法
・ 図示による ・
調査報告書（提出部数 ・ 2部 ・ ）

○ 降雨等に対する養生方法（とい共）

[3. 1. 3]

※ 改修標準仕様書3. 1. 3(5) (ア)～(イ)による ・

○ 既存防水の処理

[3. 1. 4] [3. 2. 3、4、6]

既存保護層の撤去
○ 行う（範囲 ○ 図示による ・ ）
・ 行わない
既存防水層の撤去
○ 行う（範囲 ○ 図示による ・ ）
・ 行わない
既存露出防水層表面の仕上及び塗装の除去
・ 行う（ ・ M4A3 ・ M4A5I ・ M4C ・ M4D1 ・ L4X）
・ 行わない

○ 既存下地の処理

[3. 2. 6]

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等
・ 図示による ・
POS工法及びFPOS工法（機械的固定方法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置
※ 改修標準仕様書3. 2. 6(4) (イ) ①～③による ・
設備機器架台、配管受部、バラベッド、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※ 監督職員と協議する
・ 図示による

○ 塗膜防水

[3. 6. 2. 3]

新設防水層の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	使用量	高日射反射率防水㊤	備考
POX	⊗ X-1 ○ X-2 ・ X-1H ・ X-2H ・	平 場 立 上 り	・ 主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・	・ 適用する	脱気装置 ○ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ○ 設ける ・ 設けない
L4X	・ X-1 ※ X-2 ・ X-1H ・ X-2H ・	平 場 立 上 り	・ 主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・	・ 適用する	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類
・ 主材料の製造所の仕様
・
設置数量
・ 主材料の製造所の仕様
・ （個）

特記事項

概要図

印

東京大学

工事名

東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事

作成年度

R8

副課長

係長

特任専門職員

係員

図面名称

特記仕様書 1

縮 尺

NON

図面番号

特 A-01

○ シーリング	新設防水層の種類																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
---------	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

特記事項

概要図

印

東京大学

工事名

東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事

作成年度 R8

副課長

係長

特任専門職員

係員

図面名称

縮 尺

図面番号

特記仕様書 2

NON

特 A-02

6

内装改修工事

○改修範囲

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示による
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より側側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示による
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※既存のまま
・図示による

[6. 1. 3]

○既存床の撤去及び下地補修

ビニル床シート等の除去
※仕上材のみ（接着剤とも）
・下地モルタルとも（・図示による
・除去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法
・機械的除去工法
・目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、改修標準仕様書4章外壁改修工事による。
改修後の床の清掃範囲
※図示による

[6. 2. 2]

○既存壁の撤去及び下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※改修標準仕様書4. 4. 9によるモルタル塗り（全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※図示による）
・

[6. 3. 2]

○施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6. 5. 2 (1) (イ) (b)による

[6. 5. 2]

○接着剤

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・

[6. 5. 3、4]

○軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類
屋外
※25形
・19形
屋内
※19形
・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔
・図示による
周辺部の端からの間隔
・図示による
野縁の間隔
・図示による
既存の埋込みインサート
・使用する
・使用しない
あと施工アンカーの確認試験
・行う
試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において3箇所
・（ ）箇所
確認強度 ※吊りボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ天井面積構成部材等の単位面積あたりの質量が20kg/m²以内の天井の場合は400N程度
・（ ）N
・行わない
補強方法等
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
（補強方法 ※図示による
・ ）
・天井のふとこが3. 0mを超える場合
（補強方法 ※図示による
・ ）
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
（補強箇所 ※図示による
・ ）
（補強方法 ※図示による
・ ）
耐震性能
・軽量鉄骨天井下地（特定天井）
範囲
・図示による
特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。
特定天井告示（平成25年国土交通省告示771号）による
特定天井の設計用震度 検証ルート（ ）

室名	階	設計用水平震度 (K _h)	設計用鉛直震度 (K _v)	クリアランス (mm)
		・	・	・
		・	・	・
		・	・	・

[6. 6. 2～4]




































○軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナの種類
※改修標準仕様書表6. 7. 1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
スタッドの高さが5. 0mを超える場合
※図示による
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※改修標準仕様書6. 7. 4 (5)による
・

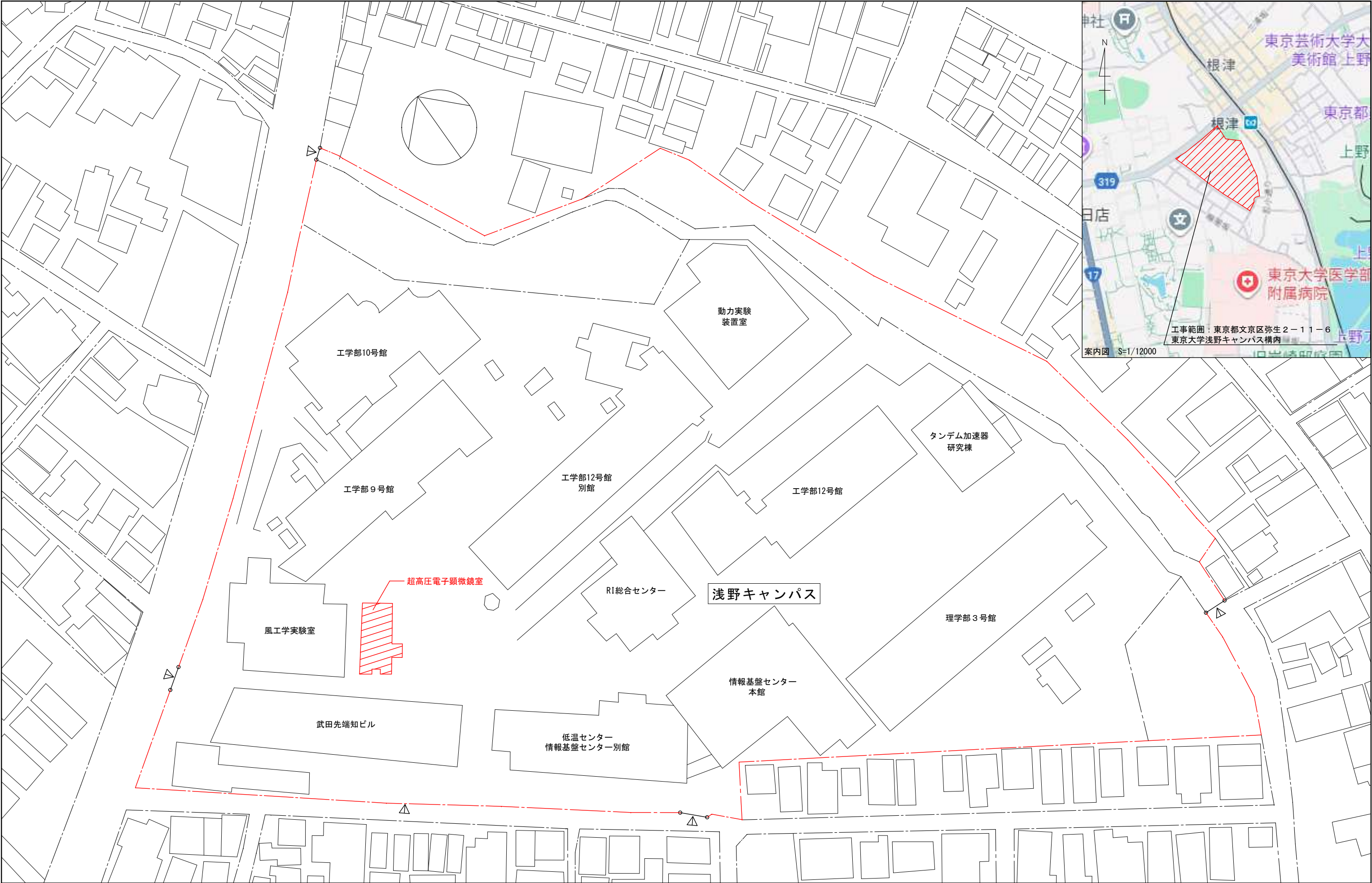
[6. 7. 3、4] [表6. 7. 1]

○ビニル床シート

○耐業床シート
種類（複層ビニル床シート）
性能（耐薬品性）
厚さ(mm)（2）
・帯電防止床タイル
種類（ ）
性能（ ）
寸法(mm)（ ）×（ ）
厚さ(mm)（ ）
・視覚障害者用床タイル
視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。
種類（ ）
形状（ ）
・耐動荷重性床シート
種類（ ）
厚さ(mm)（ ）
・防滑性床シート
種類（ ）
厚さ(mm)（ ）
・防滑性床タイル
種類（ ）
寸法(mm)（ ）×（ ）
厚さ(mm)（ ）
材質の種類
・軟質
・硬質
高さ(mm)
※60
・75
・100
厚さ(mm)
※1. 5以上
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6. 13. 2 (2) (イ) の(a)～(d)のいずれか
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
表面への化粧張り等の加工
※図示による

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板  ・木毛セメント板 ・硬質 (HW) ・中質 (MW) ・普通 (NW) ※図示による ・15 ・20 ・25 ・木片セメント板 ・硬質 (HF) ・普通 (NF) ※図示による ・12 ・15 ・18 ・21 ・30 繊維強化セメント板 ○  けい酸カルシウム板 (タイプ2) 普通ボード 0. 8FK ※図示による ・6 ・8 火山性ガラス質複層板 ・火山性ガラス質複層板 種類 ※図示による ・ 繊維板  ・  ミ ²  ンティア ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ²  ² ²	

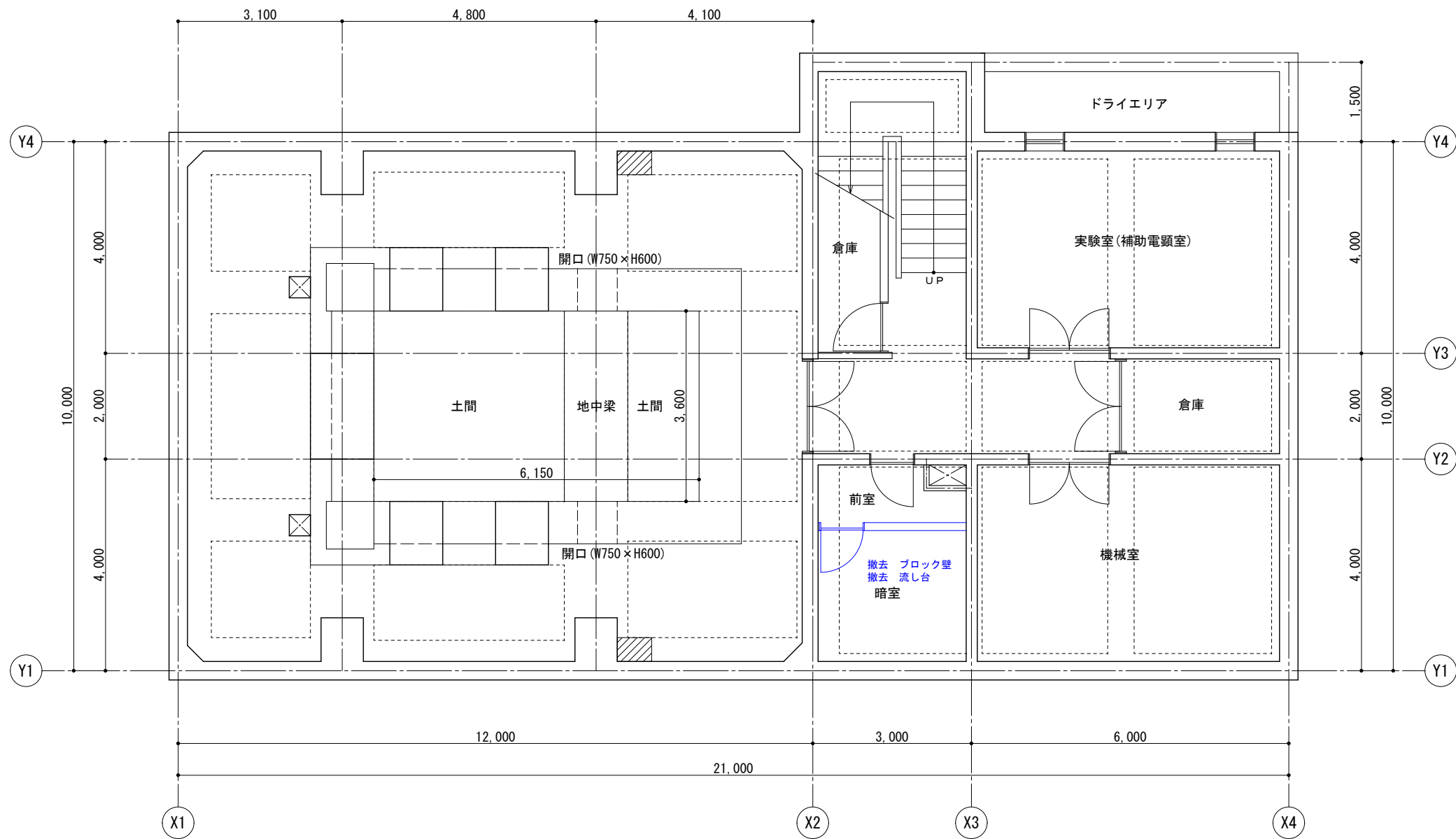
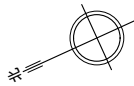
特記事項			印	東京大学	工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度 R8		
概要図						副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番号
										特記仕様書 3	NON	特 A-03



特記事項		印	東京大学	工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
				副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称		縮 尺	図面番号
								案内図・全体配置図		1/12000 1/1000	A-02

外部仕上表									
	部 位 名					備 考			
	屋根／屋上	既存利用							
	外壁	既存利用							
	樋	既存利用							
	雨水拵	既存利用							
	ドライエリア	床：防水モルタル塗り 目地切：排水溝付							
内部仕上表									
	室 名	床	巾 木		天 井	壁		備 考	
				高 さ			天井高さ		
地 階	電顕ビット室	既存利用：ビニール系タイル	—		—	—		支柱新設、換気吸い込み口新設、床置きエアコン新設	
	TEM室4	既存撤去の上、塩ビ系シート貼り	既存利用：モルタル金ゴテ	—	既存撤去の上、吸音石膏ボード張り	塗装、吸音材貼り付け	3250	既存400K TEM撤去、扉向き変更、照明・コンセント改修（排気ダクト改修）（外調機へ変更の場合EA/0Aガラリとする）	
	暗室	既存利用：塩ビ系シート	既存利用：モルタル金ゴテ	—	既存利用：フレキシブル板（ア4.0）	塗装	2300	流し撤去、ブロック壁撤去	
	機械室	既存利用：モルタル金ゴテ	既存利用：モルタル金ゴテ	—	既存利用：コンクリート	既存利用：コンクリート	3250	（空調機を全館用換気として外調機へ更新）	
1 階	TEM室1	タイルカーベツト（東リ GA100相当）	—		塗装	吸音材（アコスターボード 25t 80K以上） 防音遮熱ガラス		床置き除湿器（連続排水・静音タイプ）新設	
	前室	長尺シート	—		塗装	塗装		見学者入場あり 2方向エアコン新設、換気吹き出し口・吸い込み口新設	
	オペレーションルーム	タイルカーベツト（東リ GA100相当）	—		オフィス仕様	オフィス仕様		2方向エアコン新設、換気吹き出し口・吸い込み口新設 床置き除湿器（連続排水・静音タイプ）新設	
	TEM機械室	長尺シート	—		塗装	吸音材（GCボード 25t 40K以上）		天吊りエアコン新設、換気吹き出し口・吸い込み口新設 TEM室バイパス換気新設	
	TEM室2	既存利用：ビニール系タイル	既存利用：モルタル金ゴテ	—	既存利用：プラスターボード（ア9.0）	既存利用：コンクリート	2600	既存アネモ吹き出し口撤去、換気吹き出し口新設 既存換気吸い込み口改修	
	TEM室3（居室）	既存利用：ビニール系タイル	既存利用：モルタル金ゴテ	—	既存利用：プラスターボード（ア9.0）	既存利用：コンクリート	2600		
	暗室	既存利用：塩ビ系シート	既存利用：モルタル金ゴテ	—	既存利用：フレキシブル板（ア4.0）	塗装	2300	流し撤去、ブロック壁撤去	
2 階	TEM室1（吹抜け箇所）	—	—		遮音断熱構造（天井歩行可能） （日軽パネルシステム 断熱パネルRHRP以上） 吸音材（アコスターボード）	遮音断熱構造（天井歩行可能） （日軽パネルシステム 断熱パネルRHRP以上） 吸音材（アコスターボード）		天井に搬出入用可動ハッチ新設 手すり新設、TEM室用空調新設	
	TEM室1（吹抜け外）	既存利用：ビニール系タイル	既存利用：モルタル金ゴテ		既存利用：プラスター	既存利用：モルタル金ゴテ（H1800）+上部プラスター		ハッチ使用時昇降用階段（or アルミステップ）新設 開口部塞ぎ、TEM室用空調新設、換気吹き出し口・吸い込み口新設	
	居室2	既存利用：塩ビ系シート	既存利用：モルタル金ゴテ		既存利用：プラスターボード（ア9.0）	既存利用：モルタル金ゴテ	2600		
	居室3（TEM室）	既存利用：塩ビ系シート	既存利用：モルタル金ゴテ		既存利用：プラスターボード（ア9.0）	既存利用：モルタル金ゴテ	2600		
	便所	既存利用	既存利用		既存利用	既存利用	2350		
	更衣室	既存利用	既存利用		既存利用	既存利用	2350		
共 通	玄関	既存利用：クリンカータイル	既存利用：モルタル金ゴテ		既存利用：フレキシブル板（ア4.0）、ビル石吹付	既存利用：モルタル金ゴテ	2300		
	廊下	ビニール系タイル	既存利用：モルタル金ゴテ		既存利用：フレキシブル板（ア4.0）	塗装	2300	吹抜け箇所照明LED化	
	階段室	ビニール系タイル	既存利用：モルタル金ゴテ		既存利用：フレキシブル板（ア4.0）	塗装			
	倉庫	既存利用：ビニール系タイル	既存利用：モルタル金ゴテ			既存利用：モルタル金ゴテ			

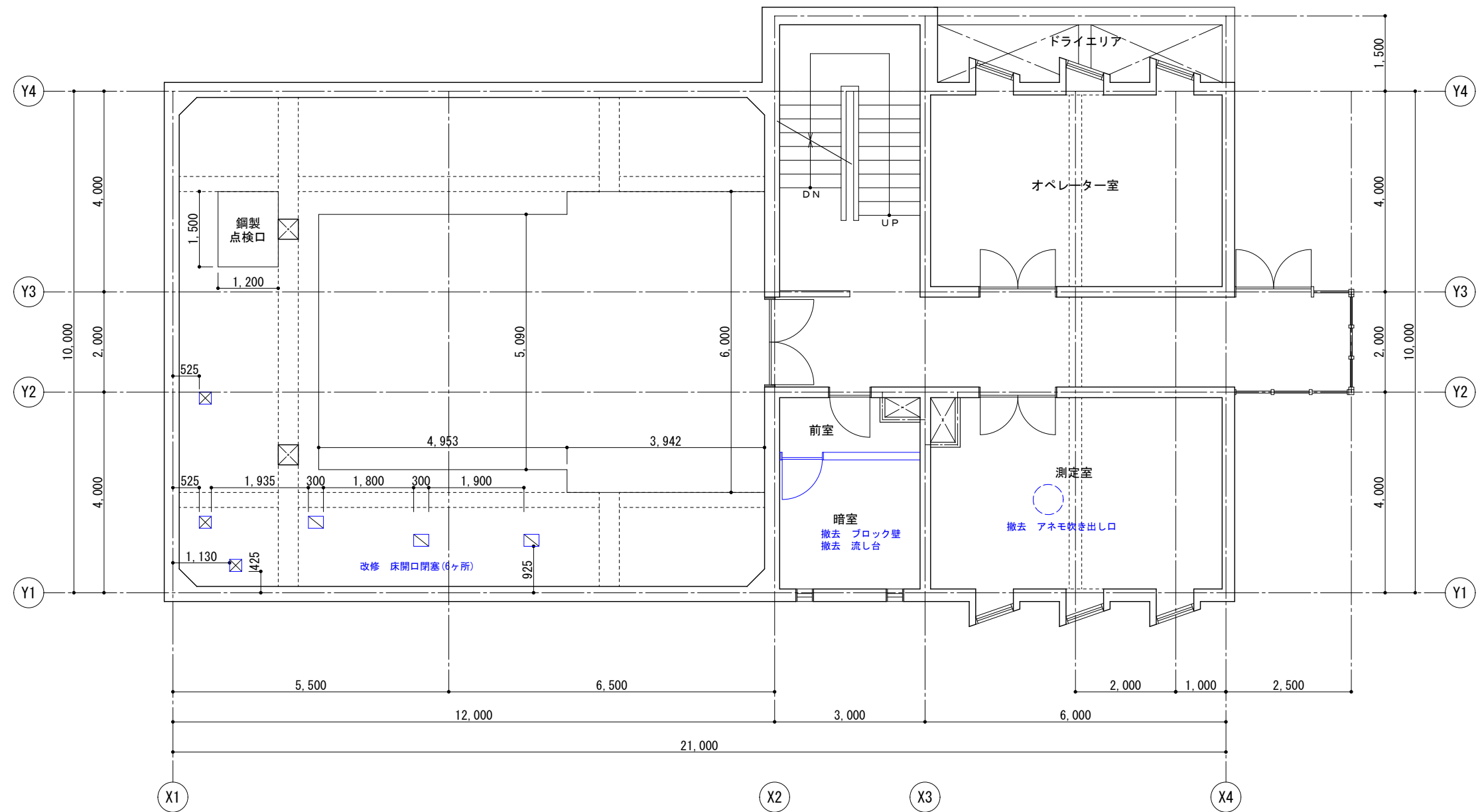
特記事項	<div>概要図</div>		印	東京大学	工事名	東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
						副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番号
										仕上表（改修後）	NON	A-03



- 支柱(コンクリート製) : 400×400
- 柱補強

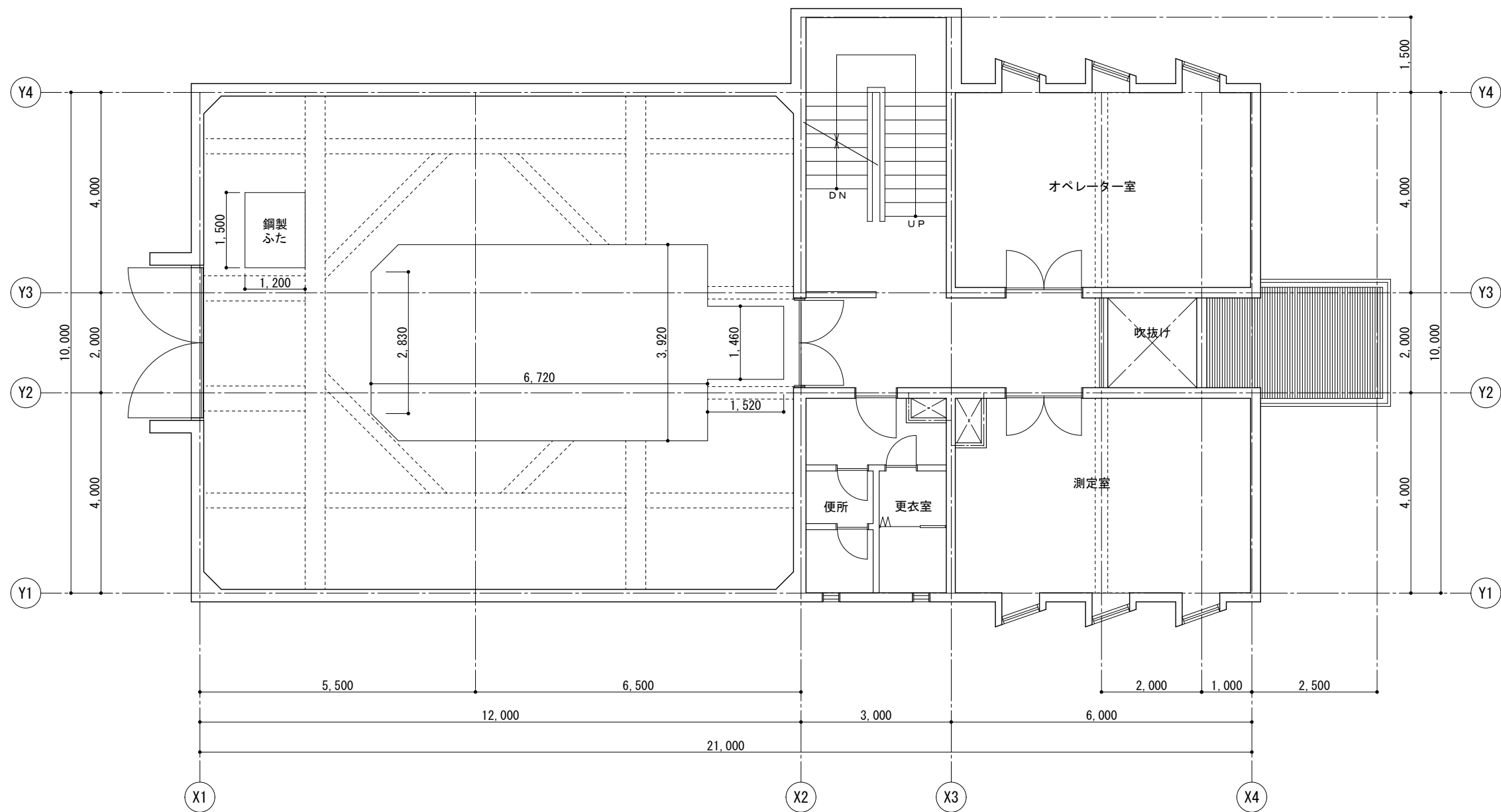
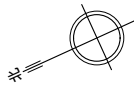
改修前

特記事項 <div>概要図</div>		印		工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番号
									地下 1 階平面図	1/100	A-04



改修前

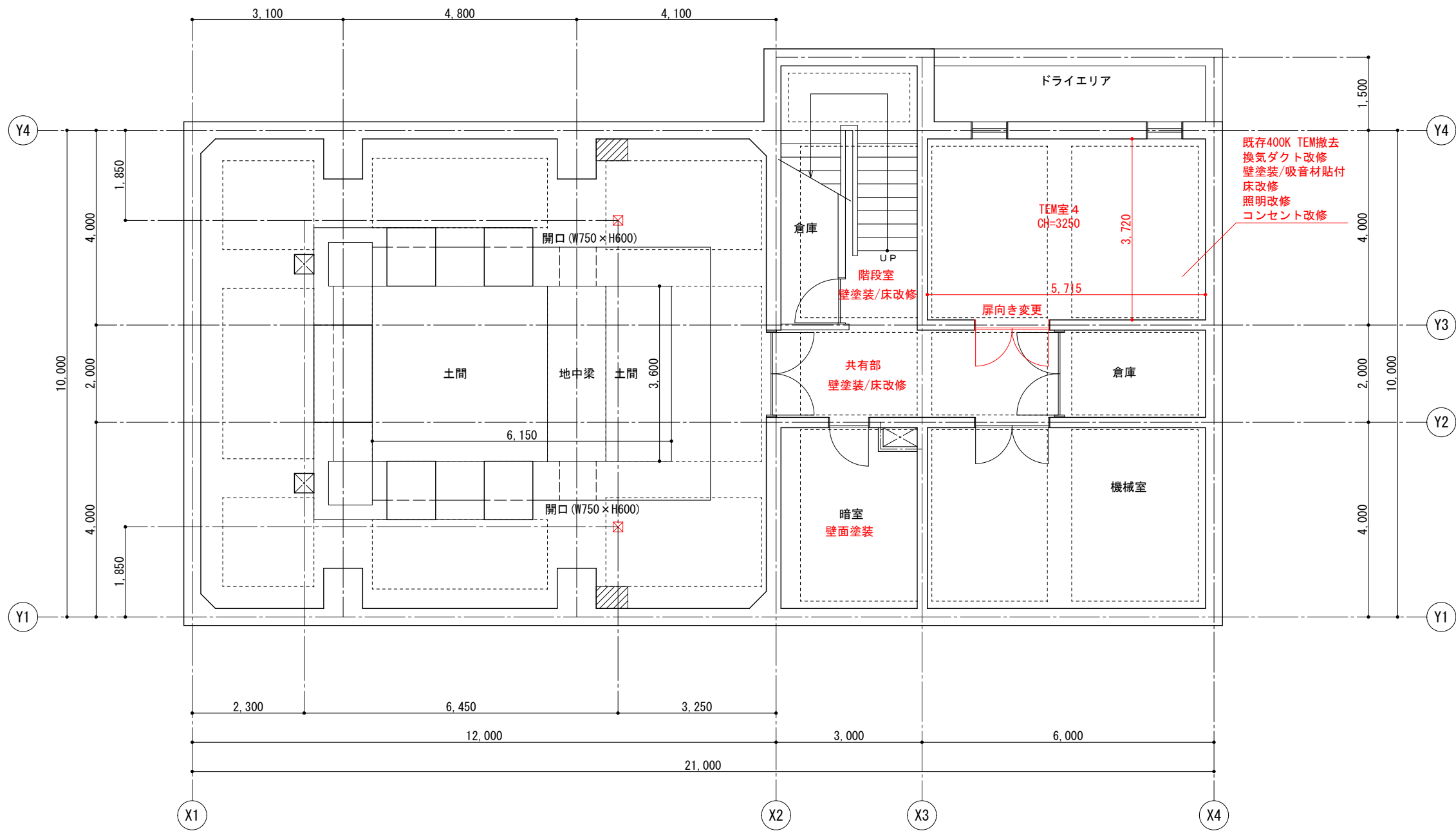
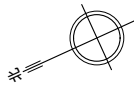
特記事項		印		工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度 R8		
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番号
									1 階平面図	1/100	A-05



改修前

特記事項		印		工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮尺	図面番号
									2階平面図	1/100	A-06

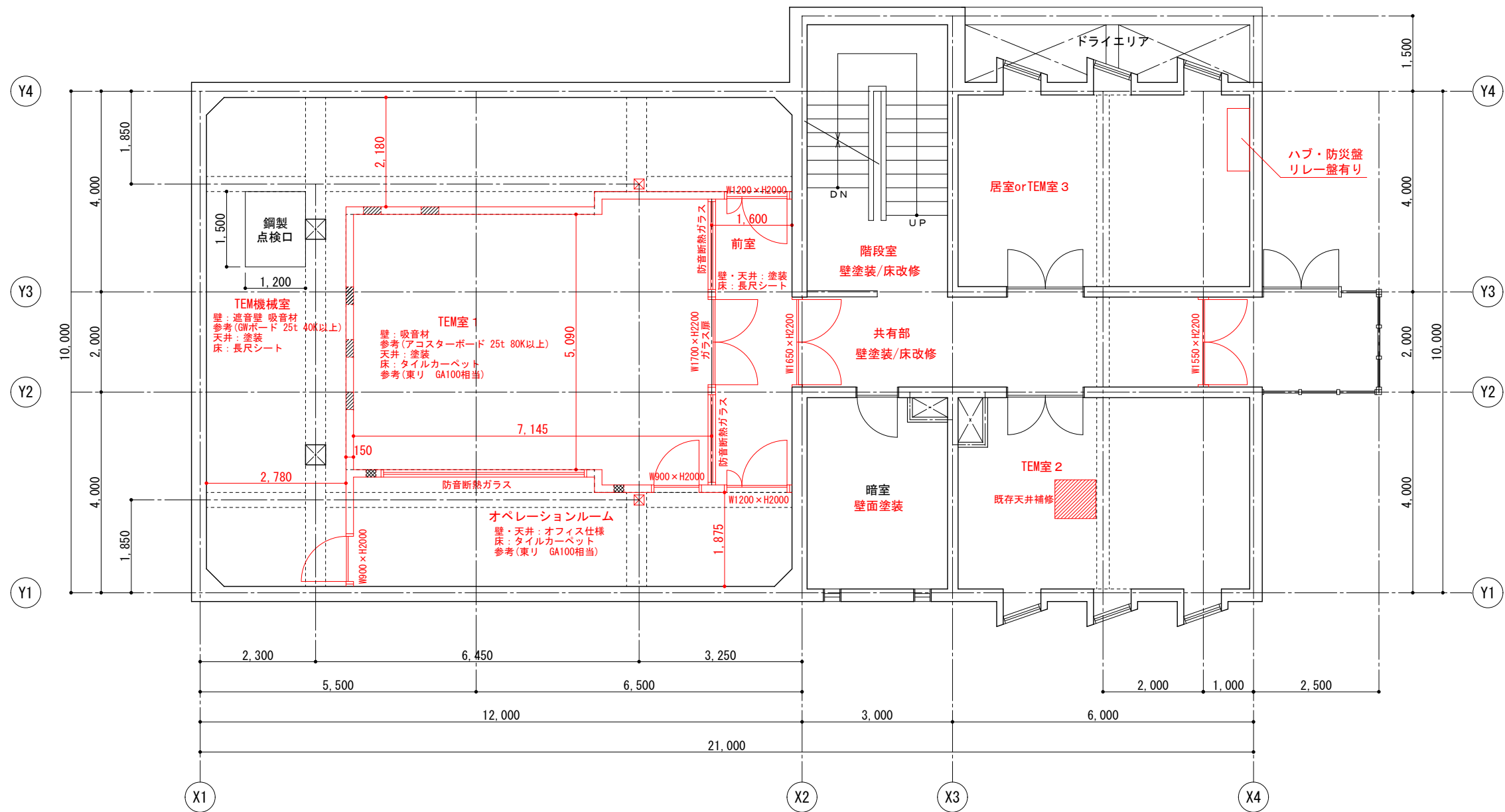
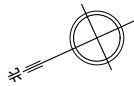
概要図



- ⊠ 支柱(コンクリート製) : 400×400
- ▨ 柱補強
- ⊠ 支柱(コンクリート製) : 200×200

改修後

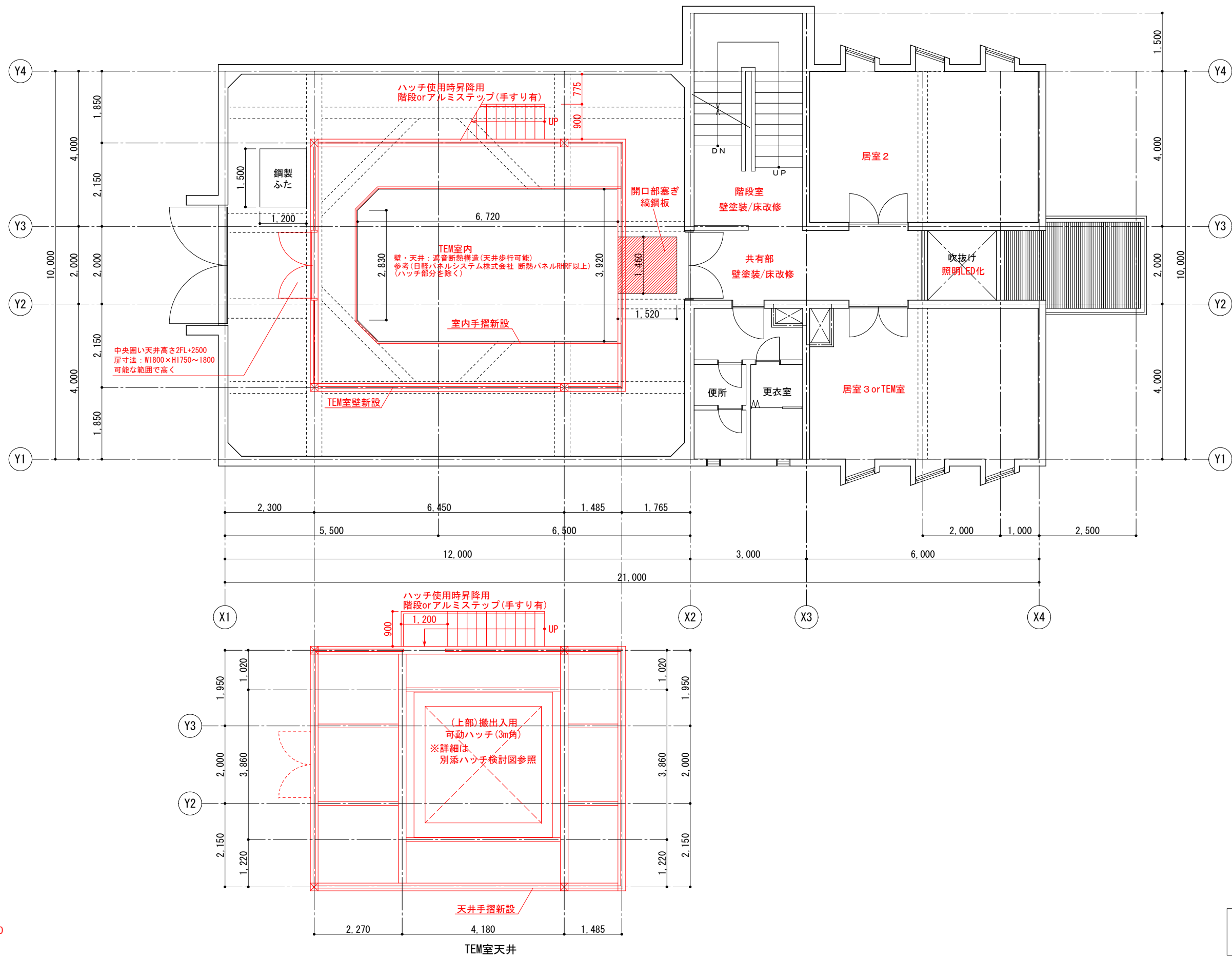
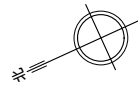
特記事項 概要図		印		工事名	東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事					作成年度	R8
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番号
									地下1階平面図	1/100	A-07



- ⊠ 支柱(コンクリート製) : 400×400
- ⊠ 開口 : 240×240
- ⊠ 開口 : 240×300
- ⊠ 支柱(コンクリート製) : 200×200
- ▨ 配線用開口 : FL+0 W350×H150(有効)
- ▨ 配線用開口 : FL+0 W200×H150(有効)

改修後

特記事項	概要図			印		工事名	東京大学（本郷） 超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度 R8		
							副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番
											1 階平面図	1/100	A-08



改修後

特記事項

概要図

印

工事名

東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事

作成年度

R8

副課長

係長

特任専門職員

係員

図面名称

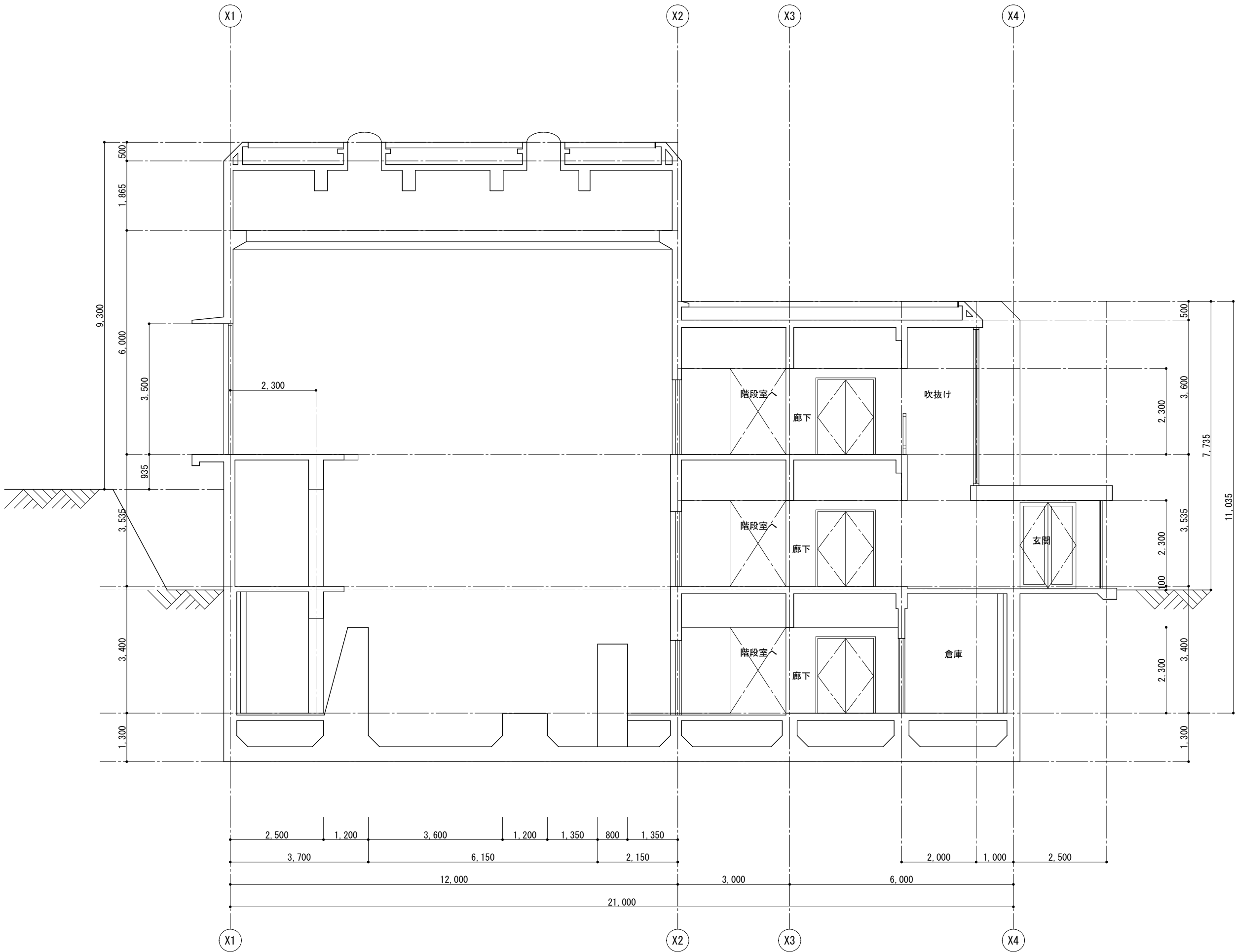
縮尺

図面番号

2階平面図

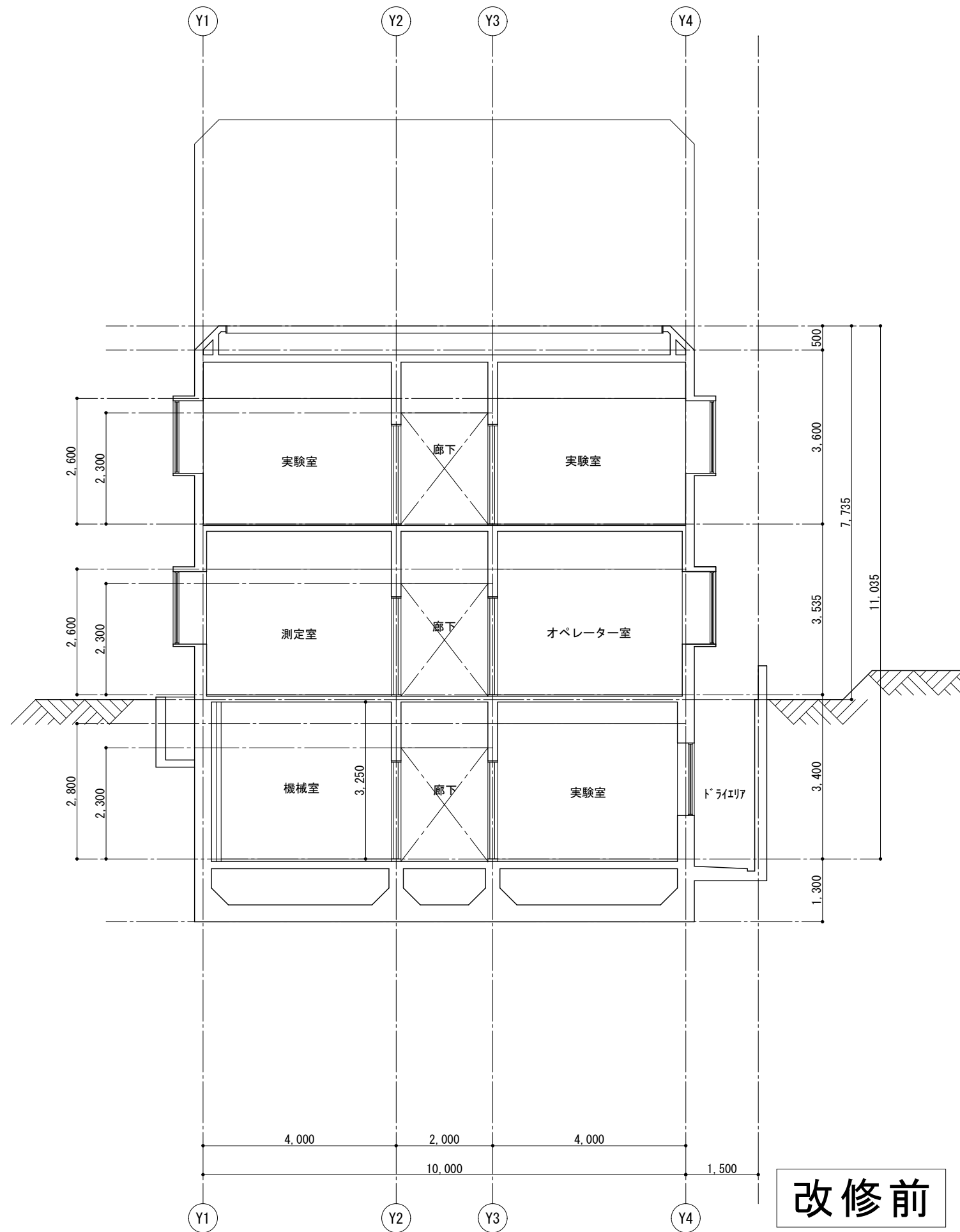
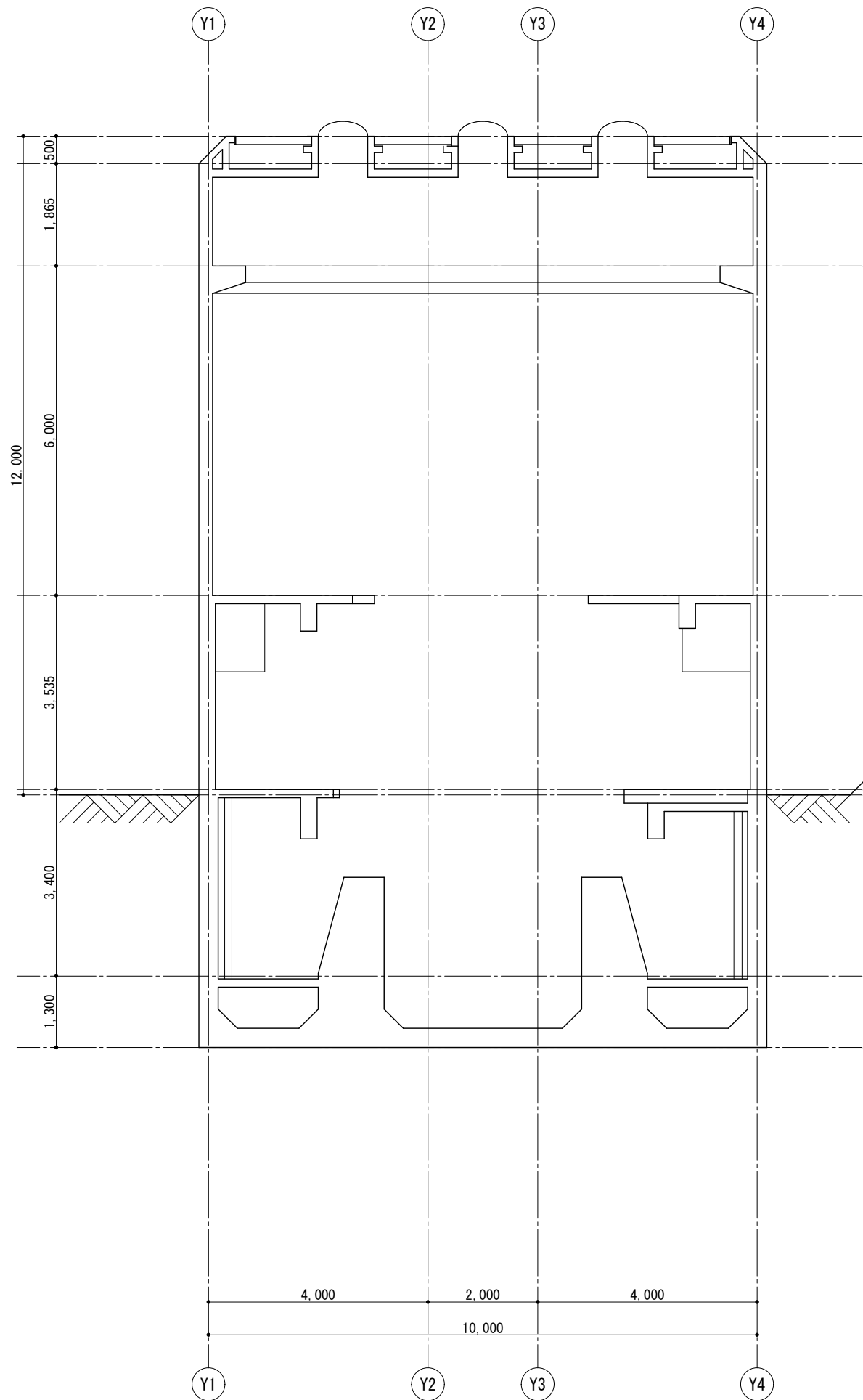
1/100

A-09



改修前

特記事項 <div>概要図</div>		印		工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮 尺	図面番号
									断面図①(改修前)	1/100	A-10



改修前

特記事項

概要図

印

工事名

東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事

作成年度

R8

副課長

係長

特任専門職員

係員

図面名称

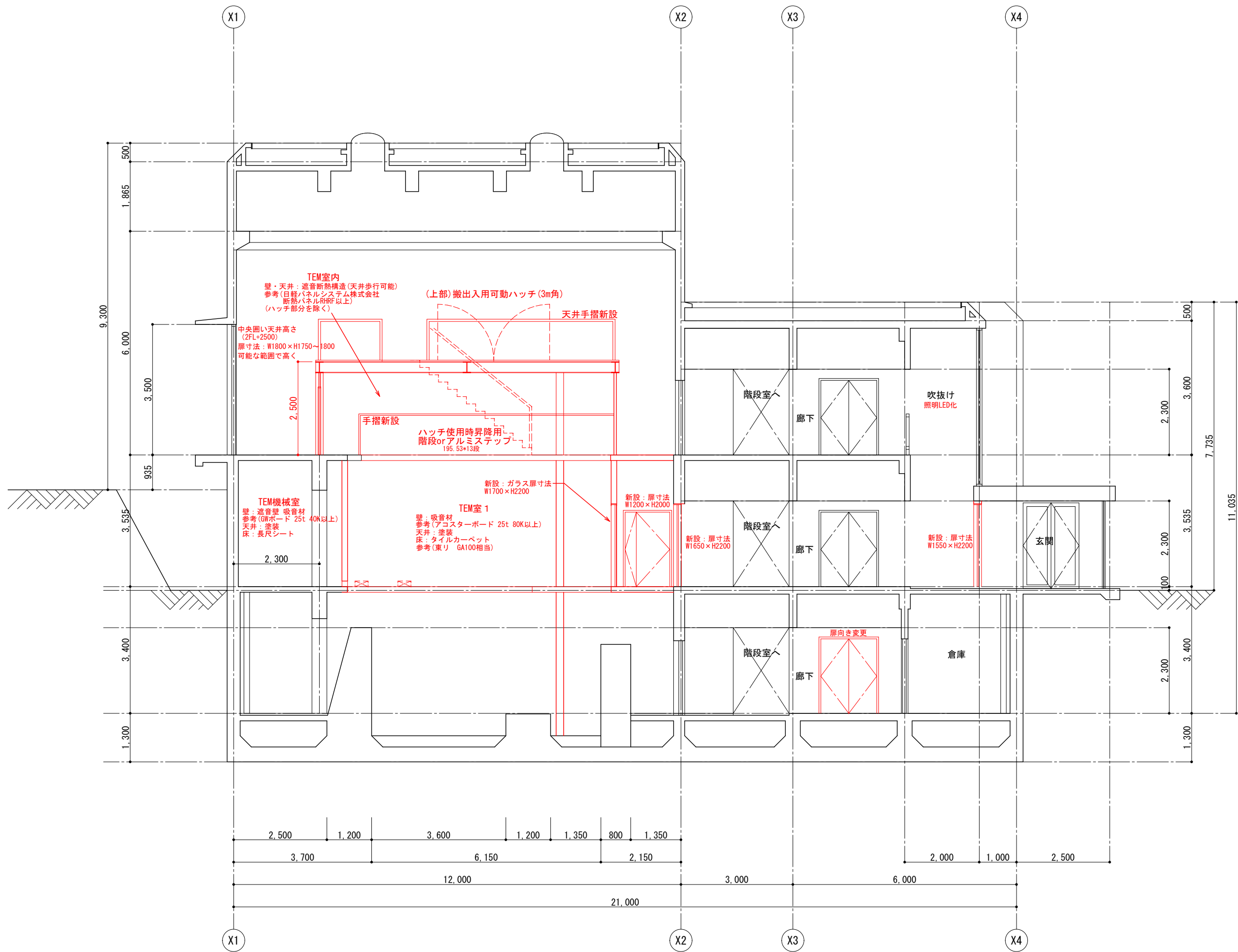
縮尺

図面番号

断面図②(改修前)

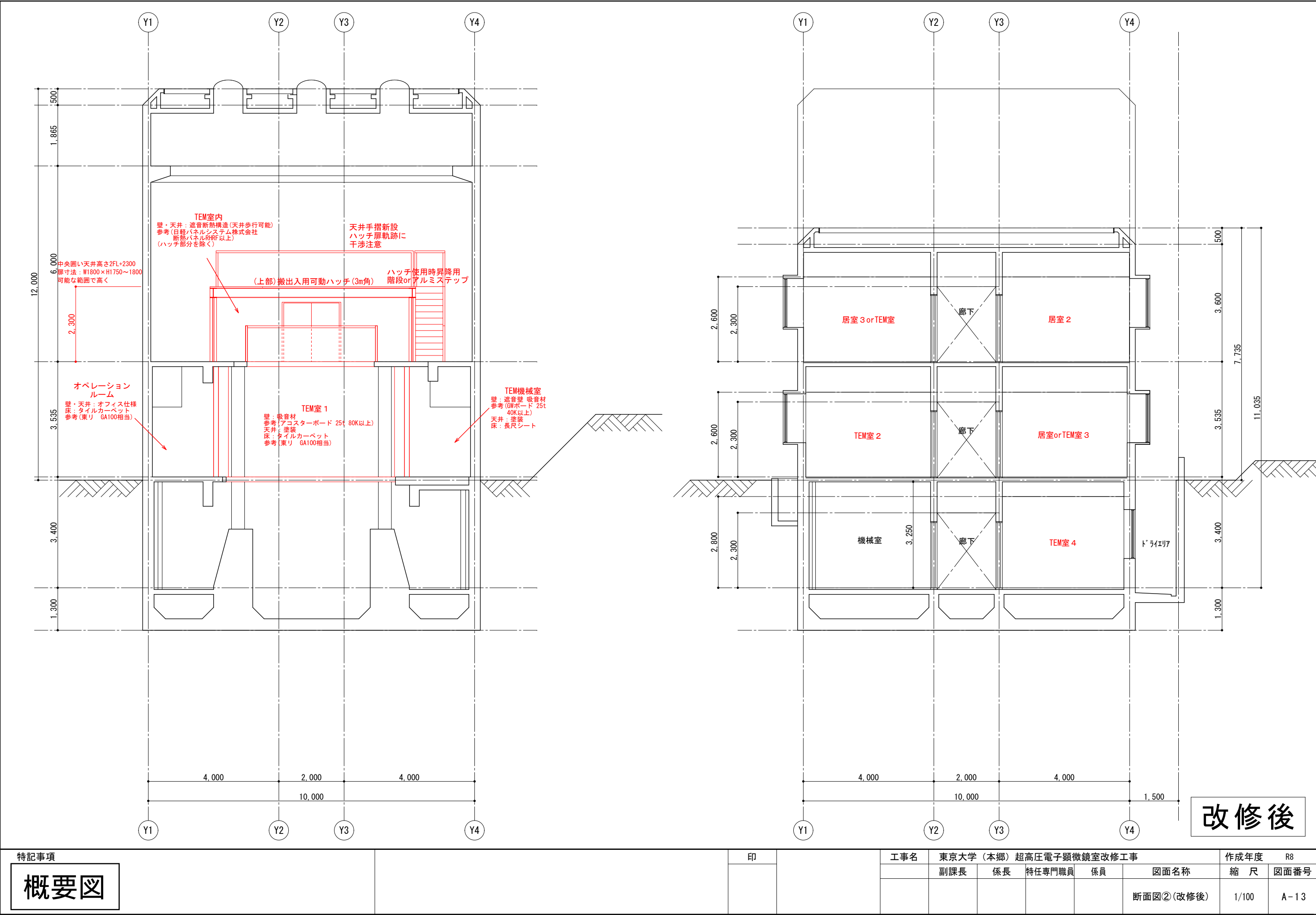
1/100

A-11

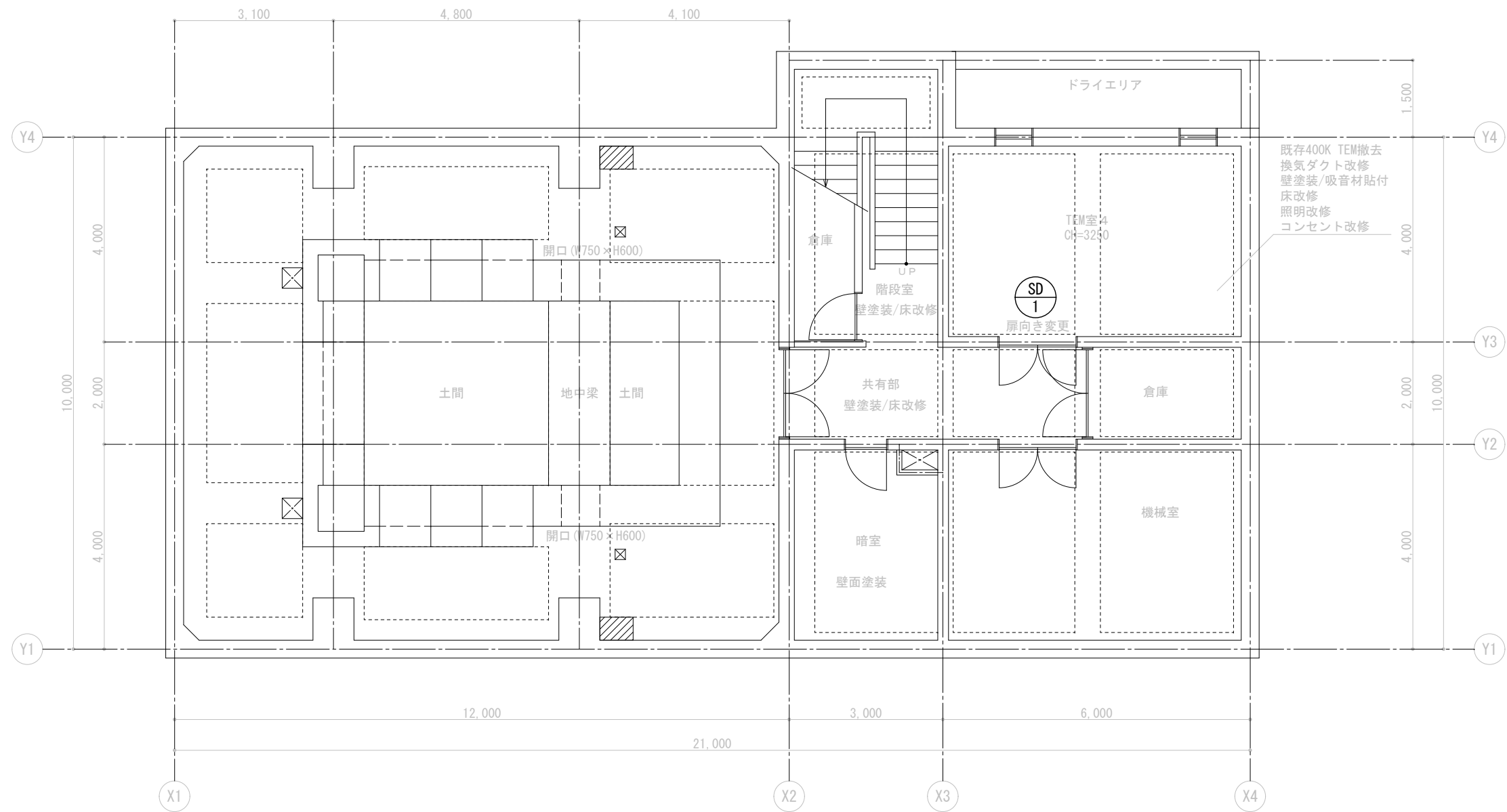
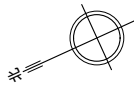


改修後

特記事項 概要図		印		工事名	東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮尺 図面番号
									断面図①(改修後)	1/100 A-12



特記事項	概要図	印		工事名	東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮尺 図面番号
									断面図②（改修後）	1/100 A-13

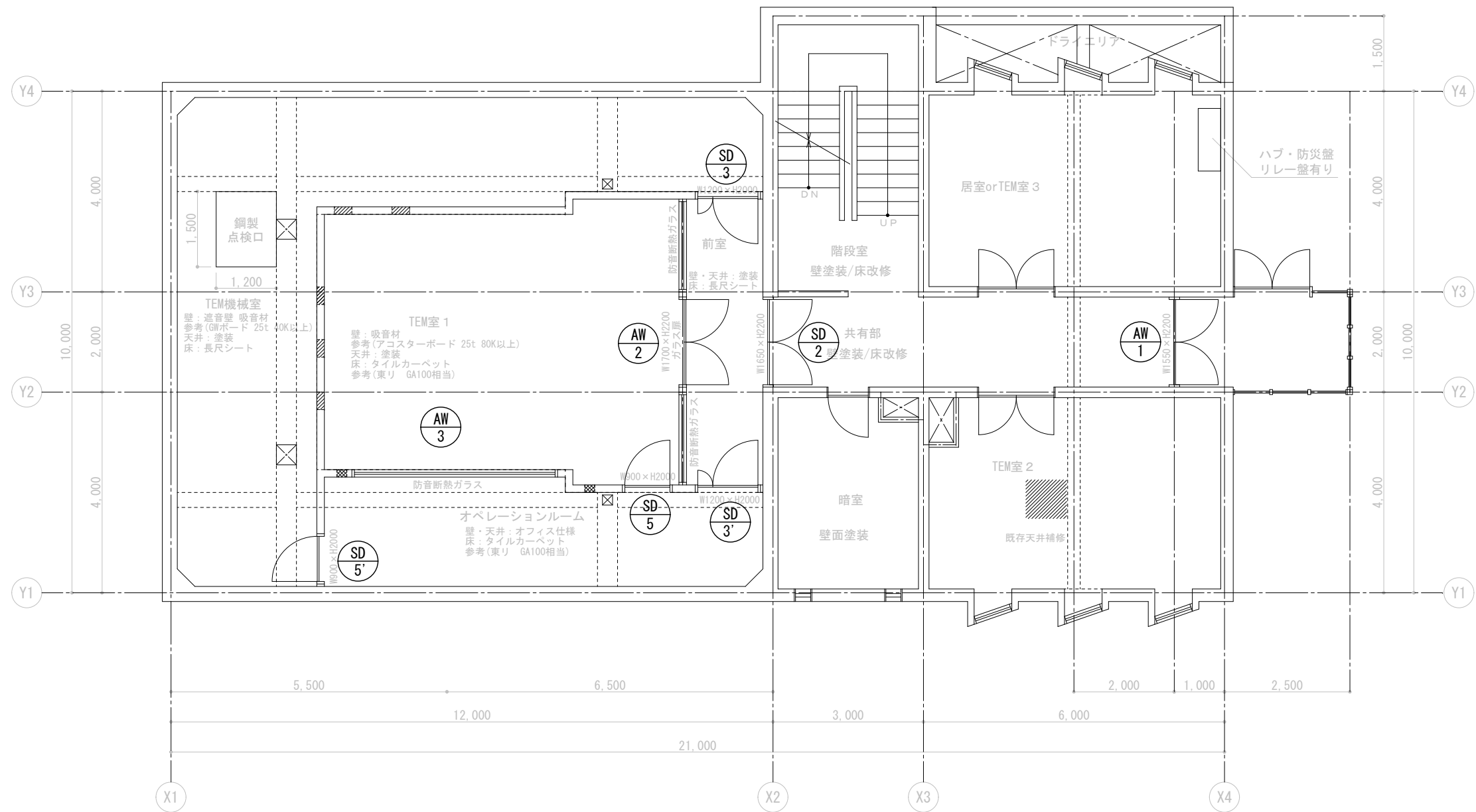
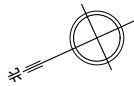


- 支柱(コンクリート製) : 400×400
- 柱補強
- 支柱(コンクリート製) : 200×200

改修後

特記事項		印		工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事					作成年度	R8
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮尺	図面番号
									地下1階キープラン	1/100	A-14

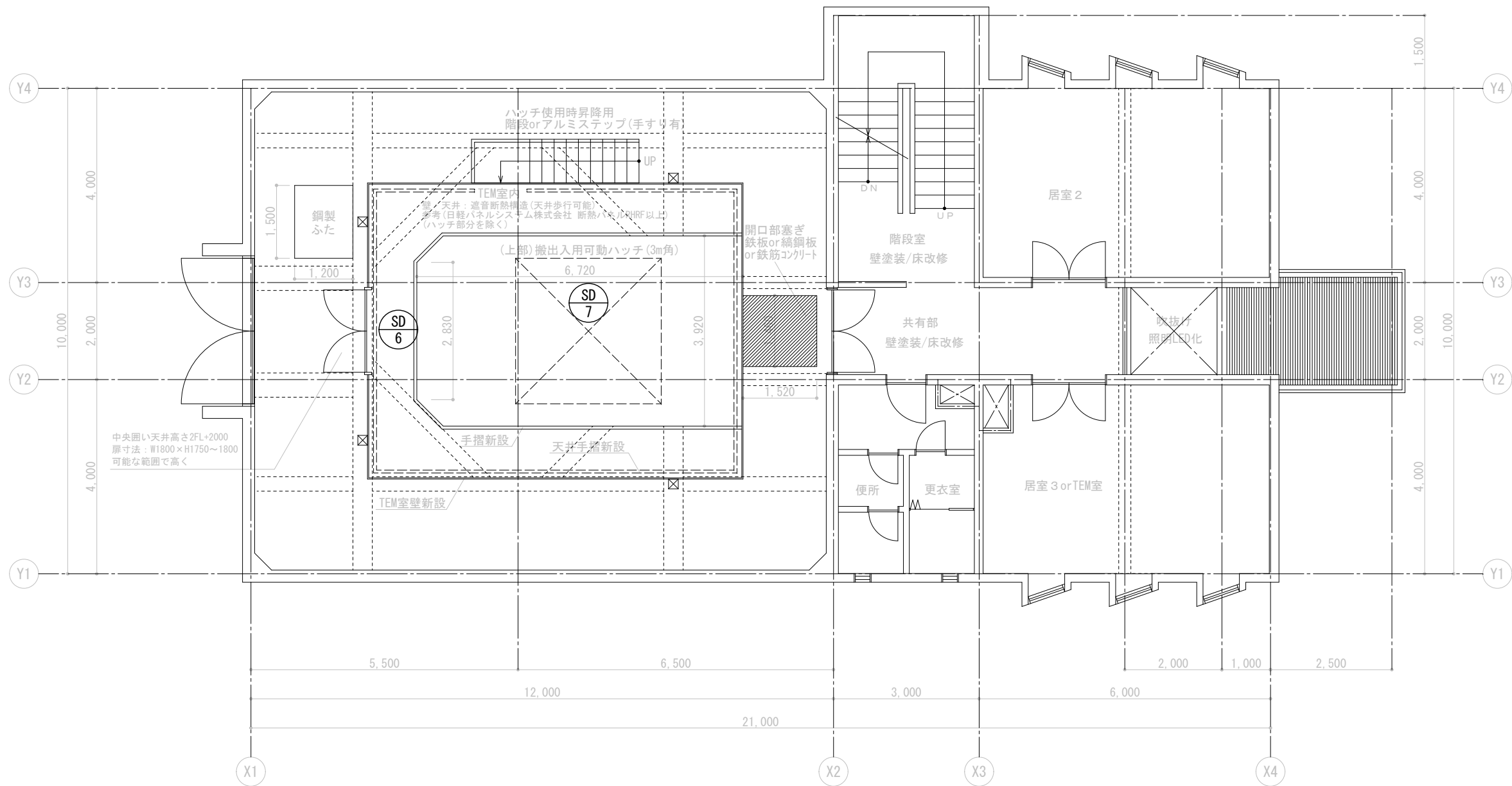
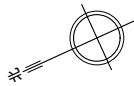
概要図



- ⊠ 支柱(コンクリート製) : 400×400
- ⊠ 開口 : 240×240
- ⊠ 開口 : 240×300
- ⊠ 支柱(コンクリート製) : 200×200
- ▨ 配線用開口 : FL+0 W350×H150 (有効)
- ▨ 配線用開口 : FL+0 W200×H150 (有効)

改修後

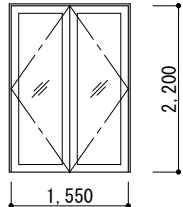
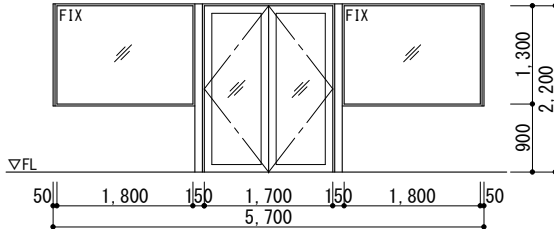
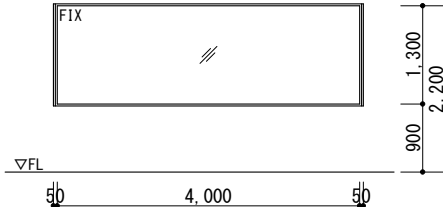
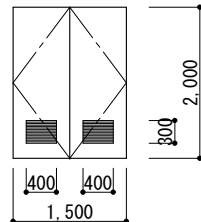
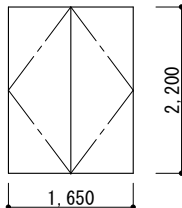
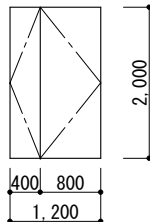
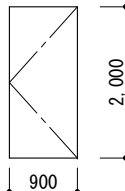
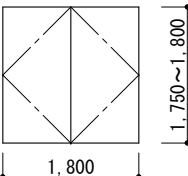
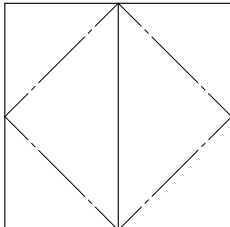
特記事項	概要図		印		工事名	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
						副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮尺	図面番号
										1階キープラン	1/100	A-15

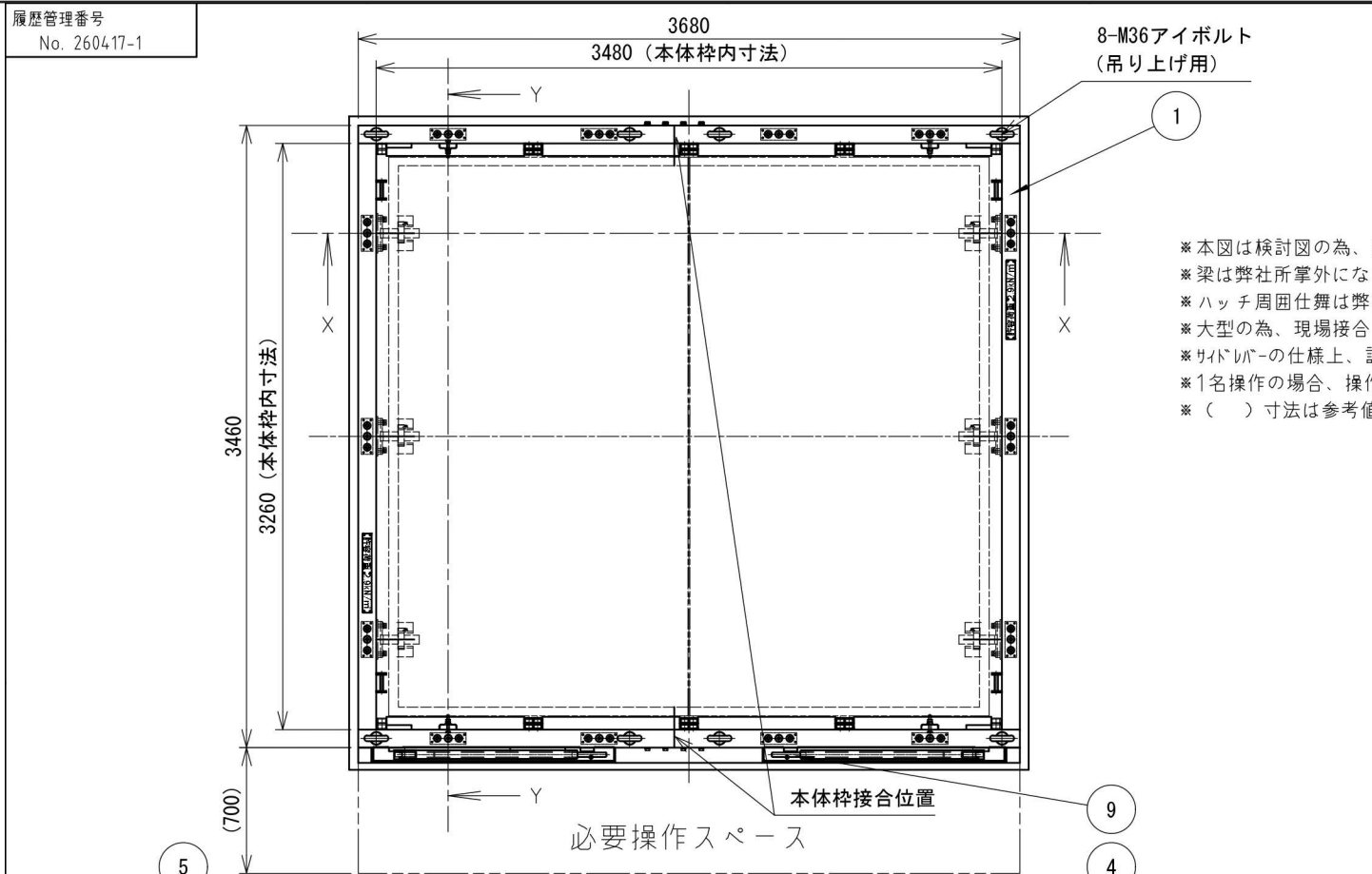


☒ 支柱 (コンクリート製) : 200 × 200

改修後

特記事項 <div>概要図</div>		印		工事名	東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修工事				作成年度	R8	
					副課長	係長	特任専門職員	係員	図面名称	縮尺	図面番号
									2階キープラン	1/100	A-16

記号	箇所	AW-1	玄関	1箇所	AW-2	TEM室 1	1箇所	AW-3	TEM室 1	1箇所												
姿	図																					
形 式		アルミサッシ両開き扉			アルミサッシ両開き扉+FIX窓			FIX窓														
仕上・見込		網入り透明ガラスt6.8			防音断熱ガラスt6.8			防音断熱ガラスt6.8														
金 物																						
備 考		風除室として利用			見学者用スペースに利用			見学者用スペースに利用														
記号	箇所	SD-1	TEM室 4	1箇所	SD-2	1 階廊下	1箇所	SD-3 SD-3'	TEM室 1 前室	2箇所												
姿	図																					
形 式		スチールフラッシュドア 両開き			スチールフラッシュドア 両開き			スチールフラッシュドア 親子扉														
仕上・見込																						
金 物		シリンダー錠 DC 丁番5インチ3枚吊り ガラリ付き			シリンダー錠 丁番3枚吊り DC			シリンダー錠 丁番3枚吊り DC														
備 考		内開きを外開きへ変更			既存開口の高さ拡張要			防音扉、SD-4' は左右反転														
記号	箇所	SD-5 SD-5'	TEM室1 オペレーションルーム	2箇所	SD-6	TEM室 1 (2階 中央囲い壁 新設扉)	1箇所	SD-7	TEM室 1 (2階 中央囲い 天井)	1箇所												
姿	図																					
形 式		スチールフラッシュドア 片開き			スチールフラッシュドア 両開き			搬出入用可動ハッチ														
仕上・見込																						
金 物		シリンダー錠 丁番3枚吊り DC			シリンダー錠 丁番3枚吊り DC																	
備 考		防音扉			防音扉、中央囲い壁高さ2000、扉の高さは可能な限り高く			別添のハッチ検討図による														
特記事項 <div>概要図</div>										印				工事名		東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事				作成年度 R8		
														副課長		係長	特任専門職員	係員	図面名称		縮 尺	図面番号
																				建具表		1/100



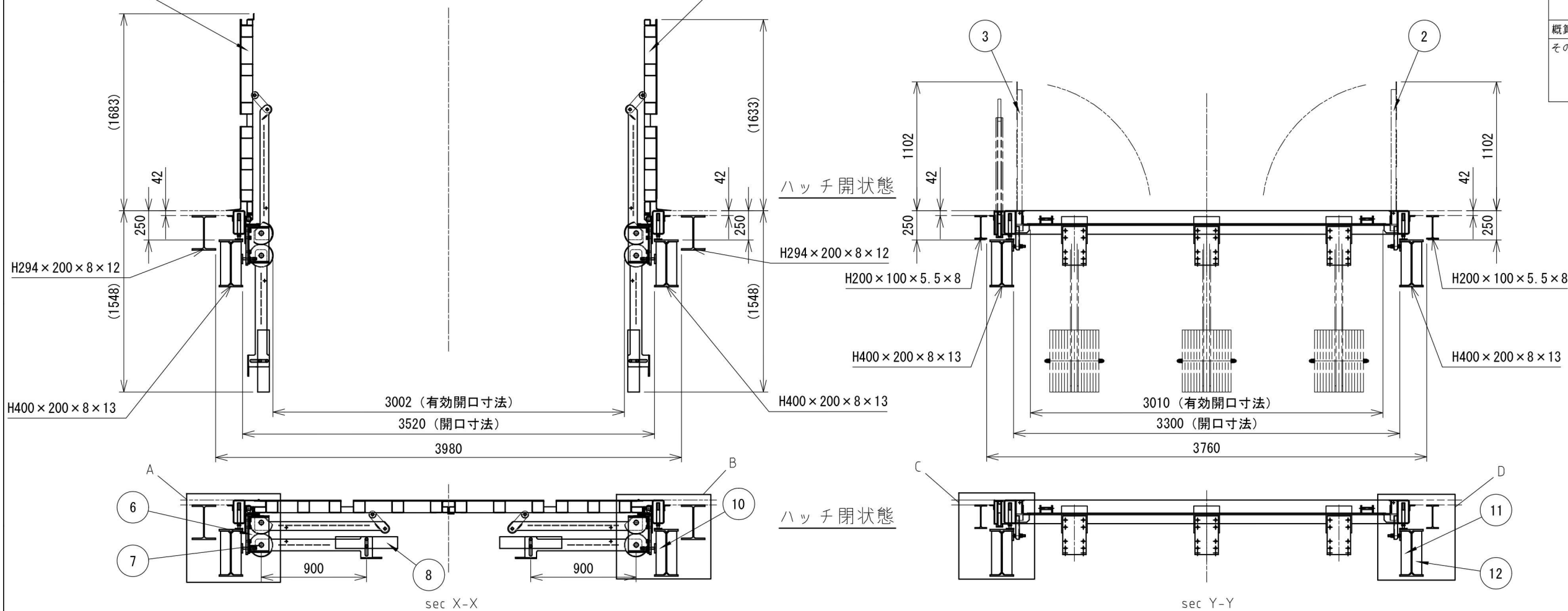
- ※ 本図は検討図の為、形状・寸法等が変更になる場合があります。
- ※ 梁は弊社所掌外になります。（梁に押しボルト受け金具、裏リブを事前溶接必要）
- ※ ハッチ周囲仕舞は弊社所掌外になります。（受け材はハッチ付属）
- ※ 大型の為、現場接合（溶接含む）が必要です。
- ※ リイドバーの仕様上、設置箇所コーナー部が有効開口寸法より100mm角程度狭くなります
- ※ 1名操作の場合、操作用力が300N以上になる場合があります。
- ※ （ ）寸法は参考値。

0mmを越え	120mm以下	±1.5mm
120mmを越え	400mm以下	±2.5mm
400mmを越え	1000mm以下	±4.0mm
1000mmを越え	2000mm以下	±6.0mm
2000mmを越えるもの		±8.0mm
指示無き寸法公差		

項目	名前	員数	材料
1	本体枠	2	STKR400他
2	安全柵1	4	STKMR290,CP400他
3	安全柵2	4	STKMR290,CP400他
4	床板1(上床)	1	STKR400,CP400他
5	床板2(下床)	1	STKR400,CP400他
6	ギャボックス	6組	SS400
7	ギャ・シャフト	6組	S45C
8	バランスウェイト	6組	SS400
9	サイドレバー	2組	SS400他
10	押しボルト受け金具1	6組	SS400
11	押しボルト受け金具2	4組	SS400
12	裏リブ	28	SS400

仕 様

設置箇所	屋内
設置方式	梁受け方式
床板種類	鋳鋼板
許容荷重	2.9kN/m ²
塗 装	<p>2種レレン</p> <p>フタル酸樹脂系塗装30μm</p> <p>塗装色：ご指定色塗装</p> <p>※ ウェイトは溶融亜鉛めっき（HDZT49） （未塗装）</p> <p>※ ボルト、ギャ歯面、摺動部は未塗装 （SUS304もしくは溶融亜鉛めっき品）</p>
概算重量	3800kg
その他	<p>サイドレバー方式</p> <p>本体枠分割仕様</p>



検討図

特記事項

概要図

印

工事名

東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事

作成年度 R8

副課長	係長	特任專門職員
-----	----	--------

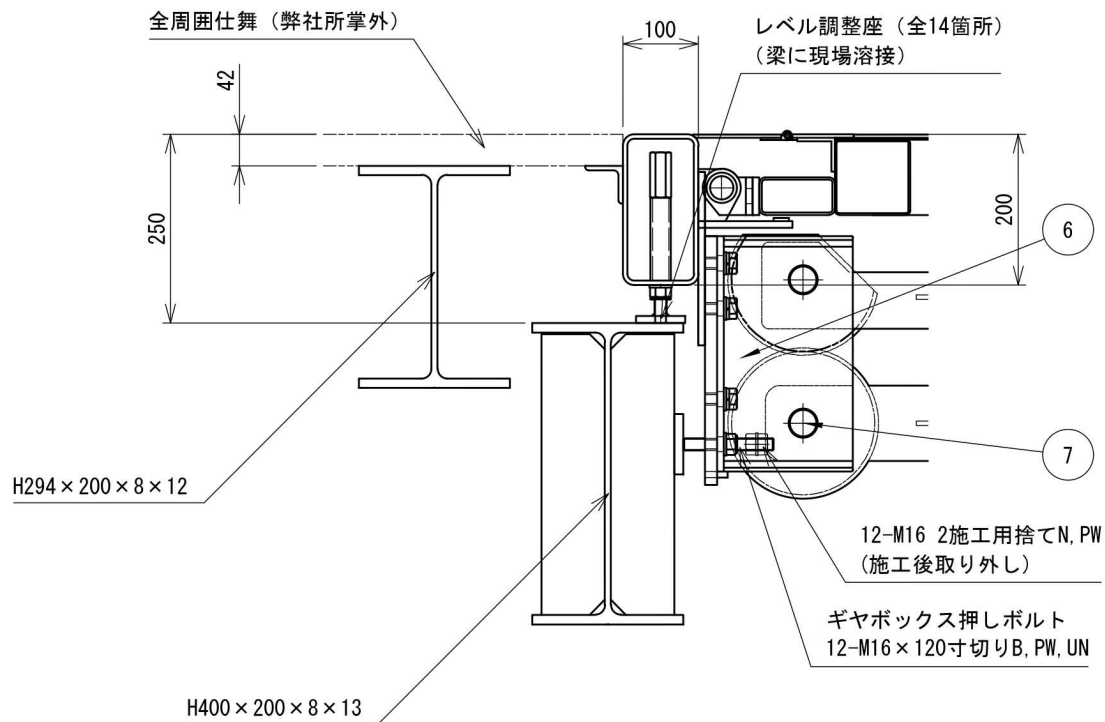
図面名称

縮 尺	図面番号
-----	------

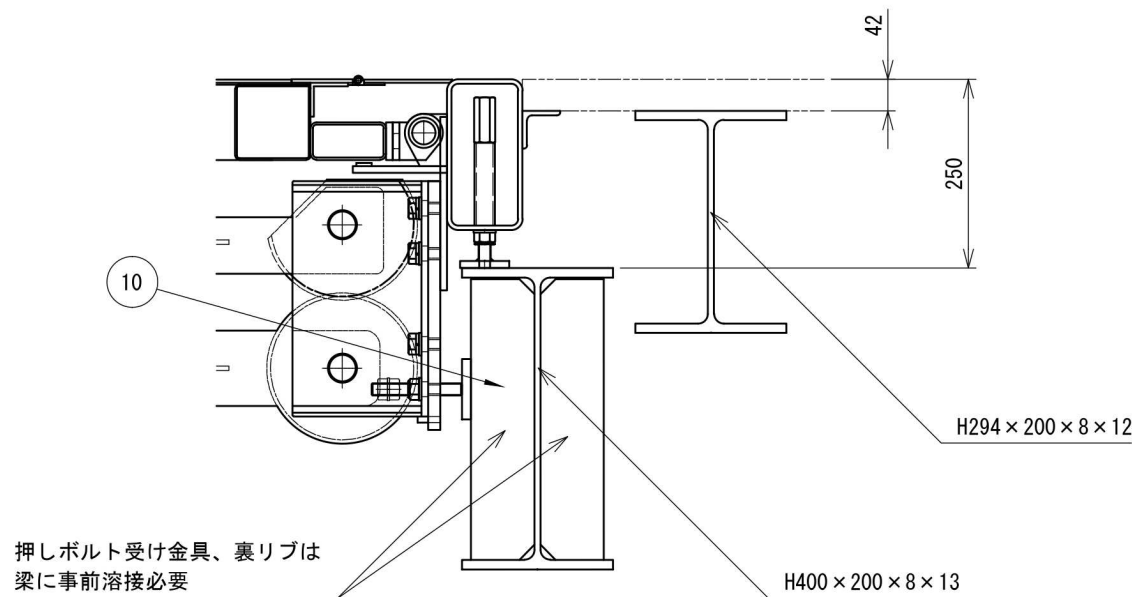
ハッチ検討図(1)

1/40

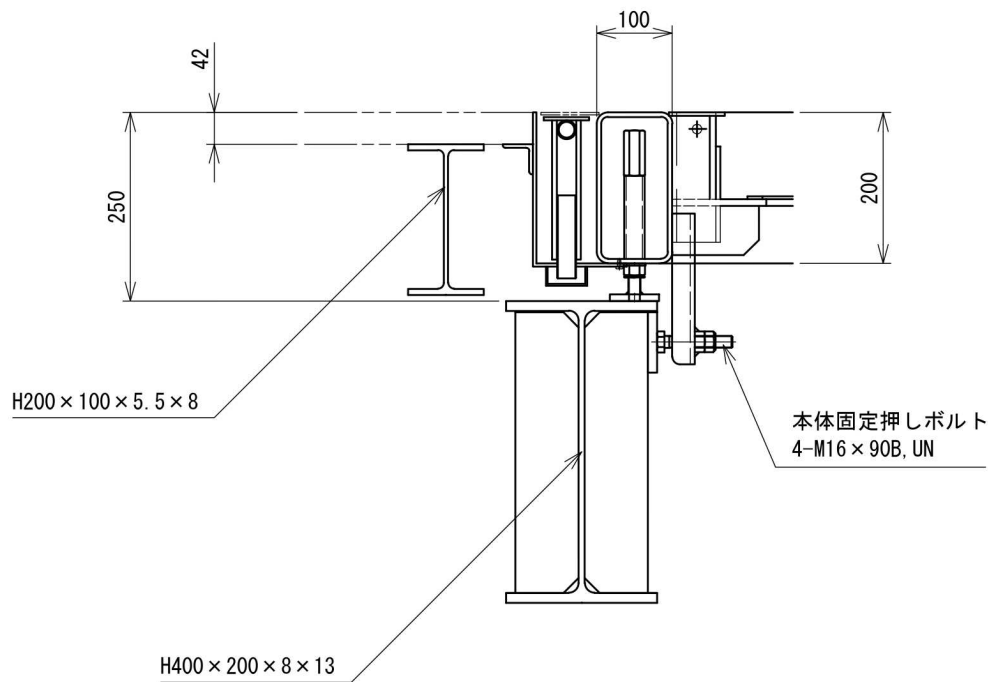
A-18



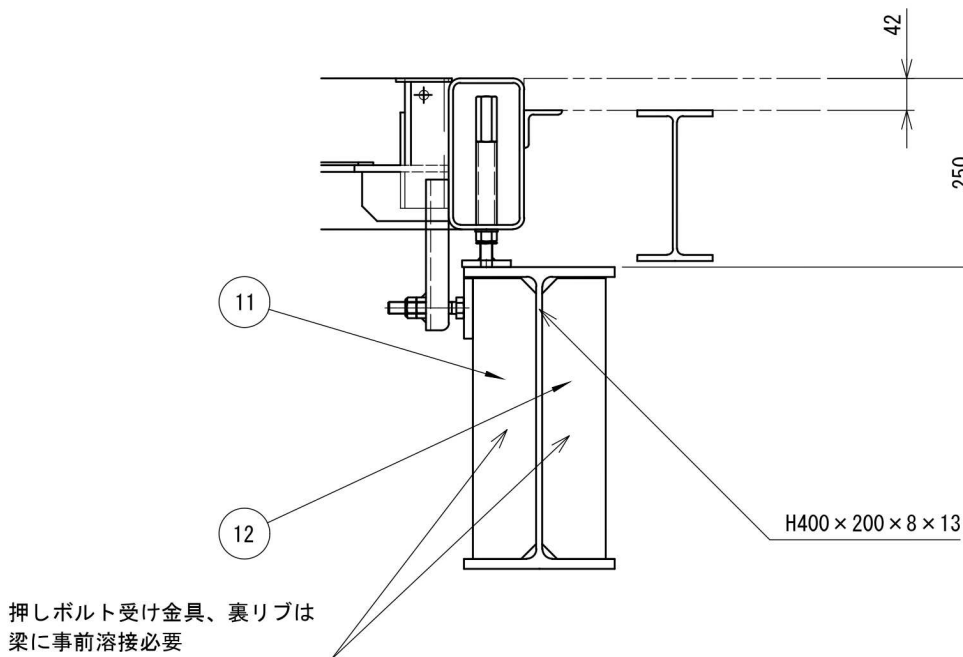
A 部詳細図 (1:10)



B 部詳細図 (1:10)



C 部詳細図 (1:10)



D 部詳細図 (1:10)

0mmを越え	120mm以下	±1.5mm
120mmを越え	400mm以下	±2.5mm
400mmを越え	1000mm以下	±4.0mm
1000mmを越え	2000mm以下	±6.0mm
2000mmを越えるもの		±8.0mm
指示無き寸法公差		

検討図

特記事項

概要図

印

工事名 東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修工事

作成年度 R8

副課長 係長 特任専門職員 係員 図面名称

縮尺 図面番号

ハッチ検討図 (2)

1/10

A-19

鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- (a) 新構造設計特記仕様その1による
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く
(c) 社内検査結果の検査報告書には、数値の寸法・精度及びその他の結果を面付する

(2) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って『鉄骨工事施工要領書』を提出し工事監督者の承認を得る
(b) 鋼骨部材の分岐継手部の組立切断は鋼骨自動切断機による
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

(3) 高力ボルト接合

- (a) 本図に使用するボルトと、収熱めボルトの併用はしてはならない
(b) 高力ボルトの座面部の組立は風圧などを密着外圧を倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面赤さが、50μm以上である場合は、赤さは発生しないままでよい。
(c) 高力ボルトの継付に使用する機能はよく整備されたものを使用し、継付けの両部材が十分に密着するよう注意して行う。

(4) 溶接接合

- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる。溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。

(a) 溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z 3301(手溶接)又はJIS Z 3341(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し、半年以上溶接に従事している者とする

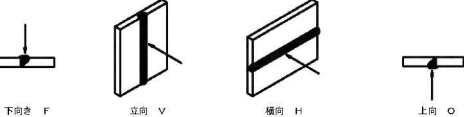
(a) 溶接機等

- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A
(ロ) アークエアークラウジング機(直流)
(ハ) サブマージアーク溶接機一式
(ニ) 炭素ガスアーク半自動溶接機
(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ヘ) 溶接棒乾燥器

(a) 溶接方法

- アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアークラウジング (AAG)

(a) 溶接姿勢



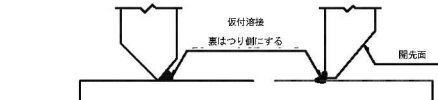
(F) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者を行う

(イ) 仮付位置

組立溶接は溶接の始、終端、隅角部が強度上、工作上、問題とならない箇所は避ける



(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に行工する



(a) 溶接施工

(イ) エンドタブ

- 1) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同形状のエンドタブを取り付ける
2) エンドタブの材質は、母材と同質とする
3) エンドタブの長さは、MC 35mm以上
NGC、GC 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度抜き切斷して、グラインダー仕上げとする
4) プレス鋼板タブ、図形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は、工事監督者の承認を得る

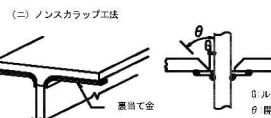
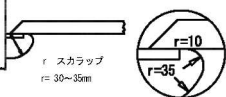


(ロ) 裏当て金

材質は母材と同質材料とし厚さは平溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上又は25mm以上を原則とする
但し、溶接性能が確認できれば監督者の承認を得て変更することができる

(ハ) スクラップ

厚さ30～35mmと10mmのダブルアルとする
但し裏当ては150mm未満の場合のスクラップはr=20mmとする



(ホ) 裏はつり

据着部の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアークラウジングを行った上で部材に確認マークを付ける
(ヘ) 現場溶接の隅角部には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、隅角部を傷めない様に養生を行う

(5) 塗装

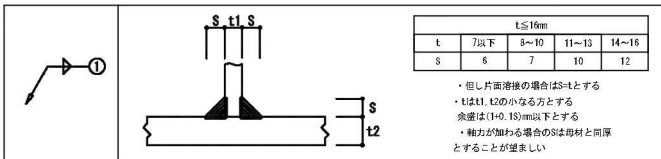
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面でコンクリートと一体化とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接標準図

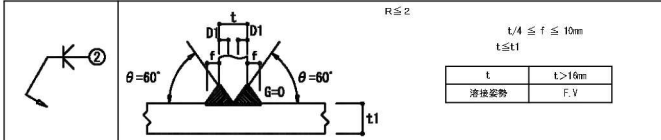
(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 鋭長

(単位:mm)

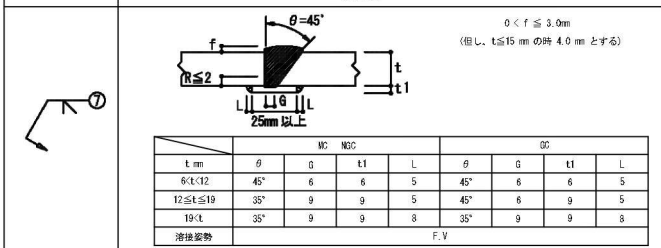
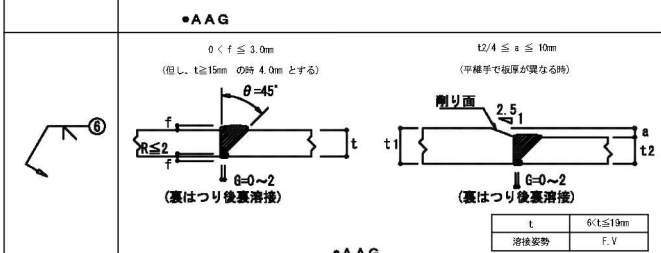
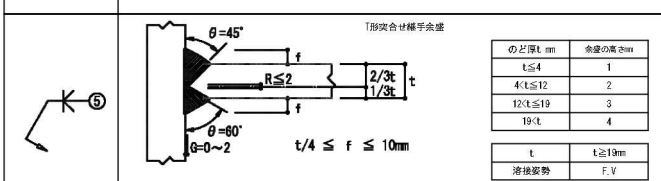
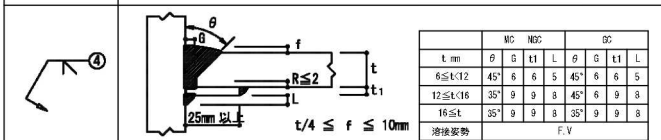
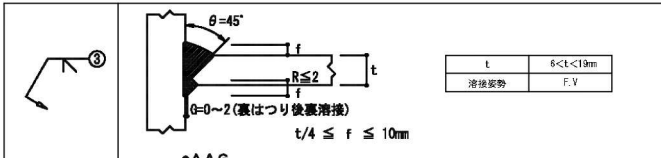
(1) 隅肉溶接



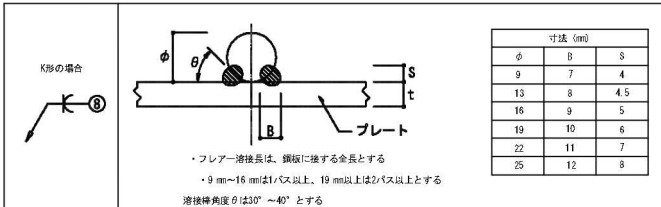
(2) 部分溶け込み溶接 (仕用箇所へ注意)



(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)



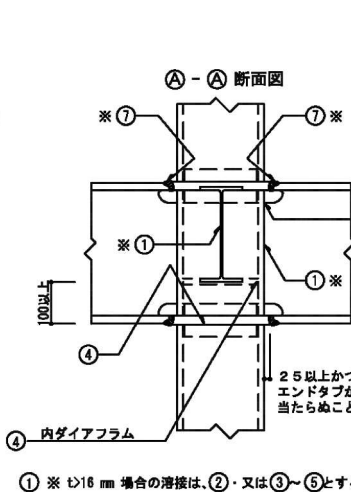
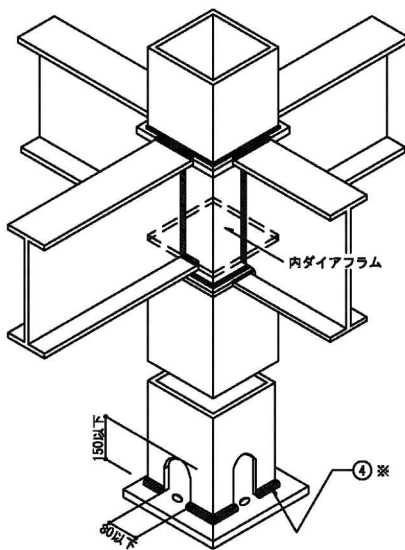
(4) フレーア溶接



※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

●BOX型

(通しダイアフラムの場合)



① ※ t16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

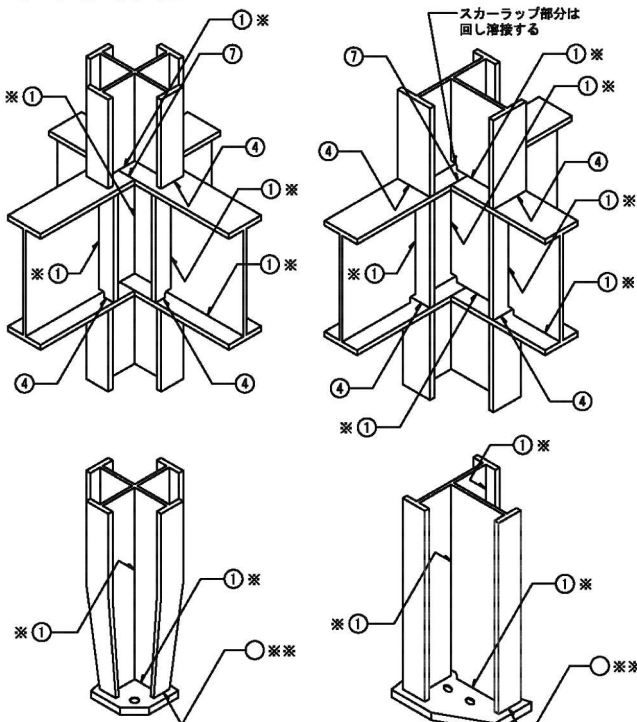
●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料と入熱量・バス開温度		バス開温度(℃)
	溶接材料	入熱量(kJ/mm)	
400N/mm ² 級鋼	JIS Z 3312	40 以下	350 以下
	YGM-11, 15		
	YGM-18, 19		
	JIS Z 3315		
	YGA-50W, 50P		
490N/mm ² 級鋼	JIS Z 3312	40 以下	350 以下
	YGM-11, 15	30 以下	250 以下
	YGM-18, 19	40 以下	350 以下
	JIS Z 3315	40 以下	350 以下
	YGA-50W, 50P	40 以下	350 以下

注) STKR BOX, BCP材はJIS Z 3312, のみ使用可

『新構造設計特記仕様その1 6. 鉄骨工事(2)』口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件を(別添事項)による。

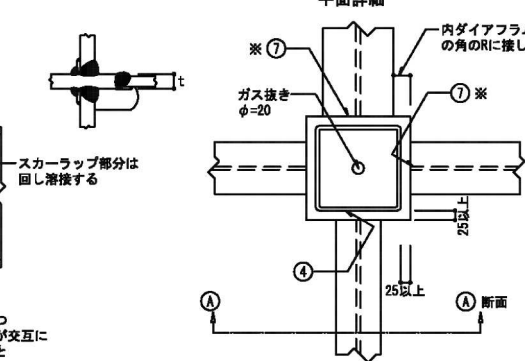
●H型



① ※ t16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。

○ ※ ※ 印は設計者が記入すること。

⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。



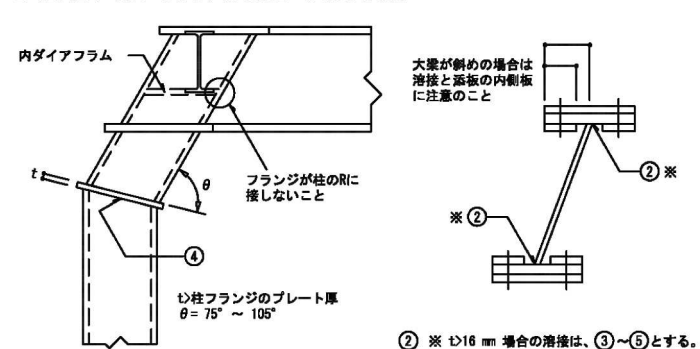
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。

＜柱材料: BCP材, BCP25を使用する場合＞

ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SM400 SM490

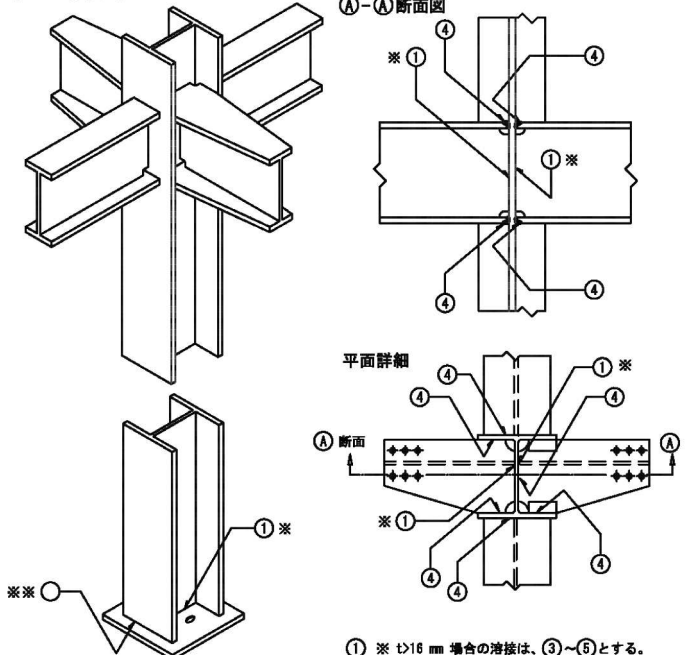
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SM400 を使用する。

●柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



② ※ t16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

●H方式



① ※ t16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

特記事項

概要図

印

工事名

東京大学(本郷)超高压電子顕微鏡室改修工事

作成年度

R8

副課長

係長

特任専門職員

係員

図面名称

縮尺

図面番号

鉄骨構造標準図(1)

NON

A-20

鉄骨構造標準図(2)

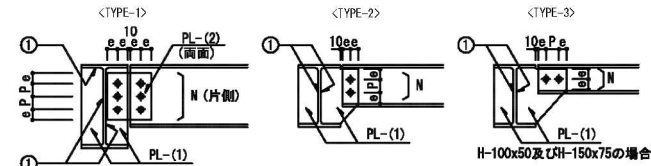
3. 継手標準図, その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P)

呼び径 d	ボルト 穴 径	最小端間距離 (a)					ボルト穴径・最小端間距離 (mm)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	ピッチ (P)	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	40	40	40	60
	M20	22	50	34	28	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト (内ボルトボルトを示す) を組める	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			

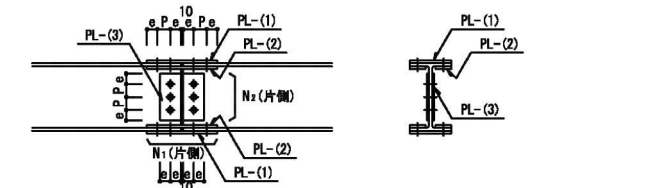
【注】(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の端間距離
(2) セン断継・手動ガス切断継の場合の端間距離
(3) 圧延継・自動ガス切断継・のこ引き継・機械仕上継の場合の端間距離

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
	3	H-125・60・6・8	6		2-M16
	3	H-150・75・5・7	6		2-M16
	2	H-175・90・5・8	H	6	2-M16
	2	H-200・100・5.5・8	6		2-M16
	2	H-250・125・6・9	6		3-M16
	2	H-300・150・6.5・9	9		3-M20
	2	H-350・175・7・11	9		4-M20
	1	H-350・175・7・11	9	6	4-M20
	2	H-400・200・8・13	9		5-M20
	1	H-400・200・8・13	9	9	4-M20

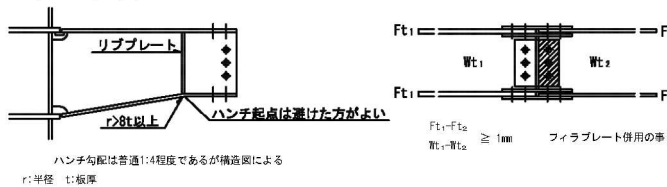
(3) 剛接合梁継手リスト



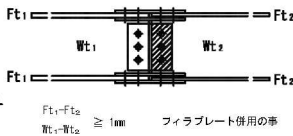
【注】 端部を別とする場合は設計図による

符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N ₁ -径	PL-(3)	N ₂ -径

(4) ハンチ部の継手



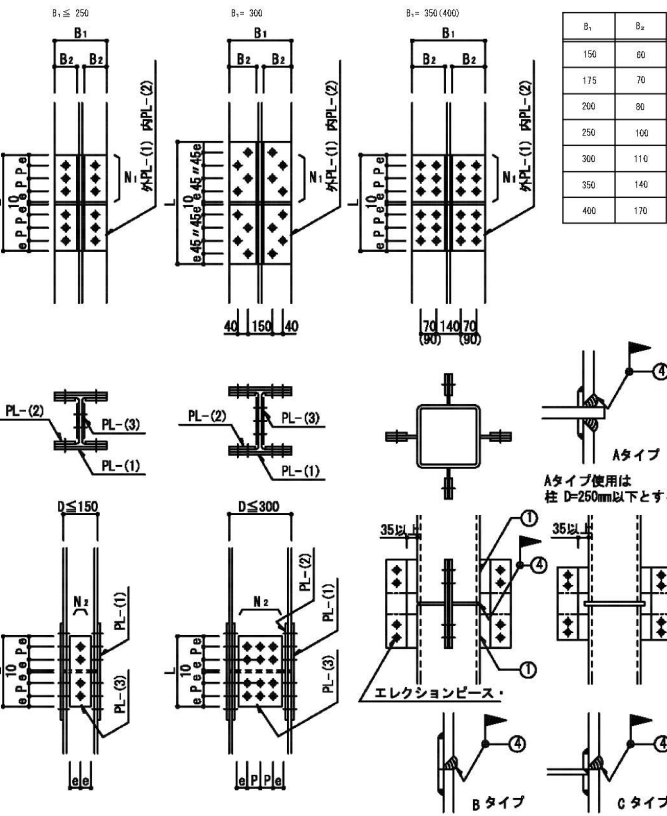
フランジ及ウェブ厚のある場合



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による
r:半径 t:板厚

※修正箇所は下線を引くこと

(5) 柱継手リスト



【注】 現場接合は原則として超音波探傷試験を100%行う

符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N ₁ -径	PL-(3)	N ₂ -径

(6) 鉄筋ブレース

(JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2006 / 5541 … 2006

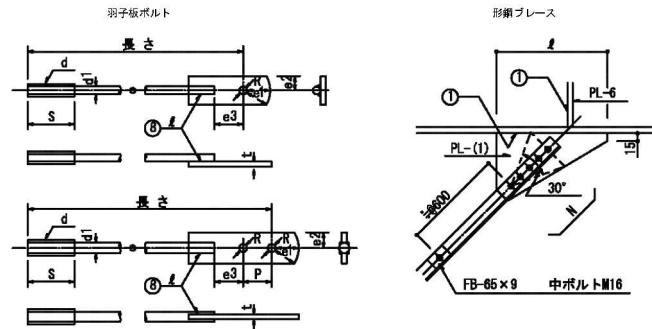
ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最 大	10.83	12.68	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最 小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.68
調整ねじの長さ		5	100	115	125	140	150	165
取付けボルト穴径 許容差 +0.0 -0.5 mm		8	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小)		(2) e1	40	40	45	50	55	50
切板板	へりあき (最小)	(1) e2	28	28	28	34	38	39
	板 厚 t	6	6	6	9	9	9	9
	へりあき (最小)	(1) e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5
平鋼板	板 厚 t	5	6	6	9	9	9	9
	ボルト端から取付けボルト穴のあき (最小)	e3	52	58	66	66	73	70
	増設長さ (最小)	l	40	50	55	60	75	85
(2)	種 類	JIS B 1196 2種高力ボルト (F10T)						
	取付けボルト	ねじの呼び	M12	M16	M18	M20	M22	M20
		本 数	1	1	1	1	1	2

【注】(1) e1, e2が確保されてれば形状は理由でよい

(2) 羽子板とガセットプレートの場合は裏に取付けボルトを使用し、一面せん断(受圧)接合とする

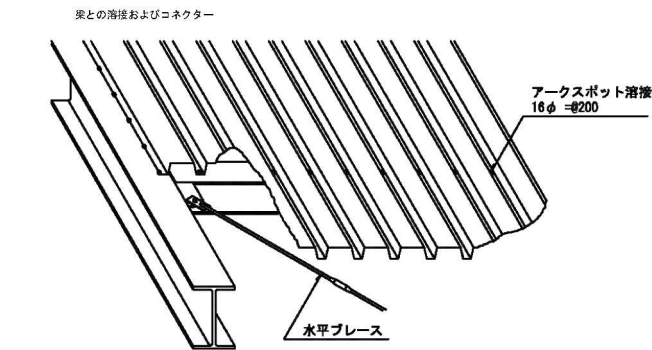
(b) 形鋼ブレース

符 号	部 材	PL-(1)	N-径	l



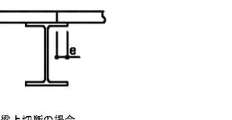
(7) デッキプレート

(床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)

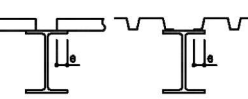


受梁へのかかり寸法及端部処理 e≧35mm

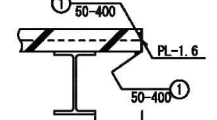
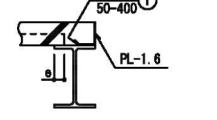
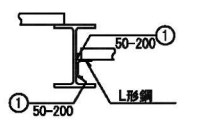
梁上通しの場合



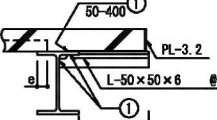
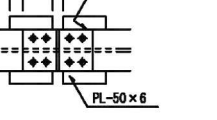
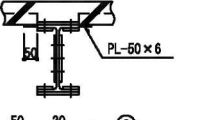
梁上切断の場合



スラブ端部の補足材



補足受材

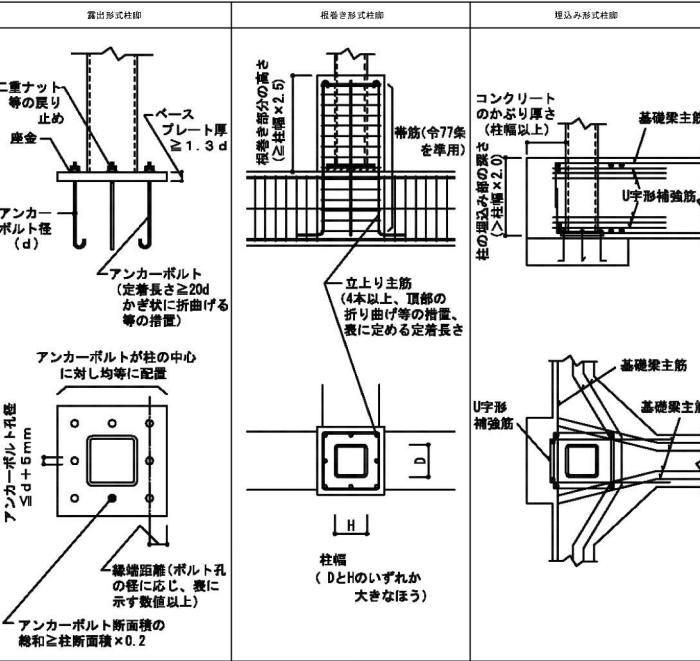


平成27年5月1日 発行 一般社団法人 東京都建築事務所協会 監修 東京都建築構造設計協会

(8) 柱脚

【注】 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式

※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。



(9) 頭付きスタッド

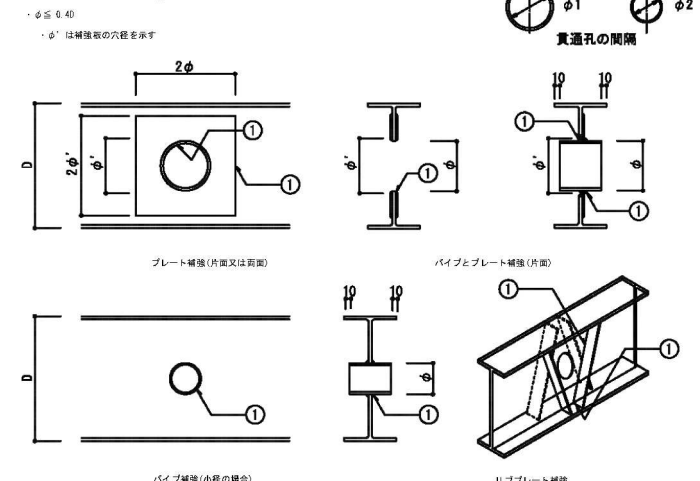
(JIS B 1198 - 2011)

スタッド材の標準形状・寸法

形 状	スタッド材				
	呼び径	軸径 d (mm)	鋼径 D (mm)	鋼高き T (mm)	呼び長さ L (mm)
	φ13 mm	13	25	8	□80 □160 □120 □
	φ16 mm	16	29	8	□80 □160 □120 □
	φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

(10) 梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によりなくとも良い
・梁端部 (内径スパンの1/10以内かつ、20型内) は避ける
・φ≦φ₀
・φ₀ は補強板の穴径を指す



プレート補強の取厚

スリッパ径	補 強 板
φ≦φ ₀ 150	補強板不要
φ≦φ ₀ 1/4	φ ₀ 板厚以上 (片面)
φ≦φ ₀ 1/3	φ ₀ 板厚×1/2倍以上 (片面)
φ≦φ ₀ 0.40	φ ₀ 板厚以上 (両面)

特記事項

概要図

印

工事名

東京大学 (本郷) 超高圧電子顕微鏡室改修工事

作成年度 R8

副課長

係長

特任専門職員

係員

図面名称

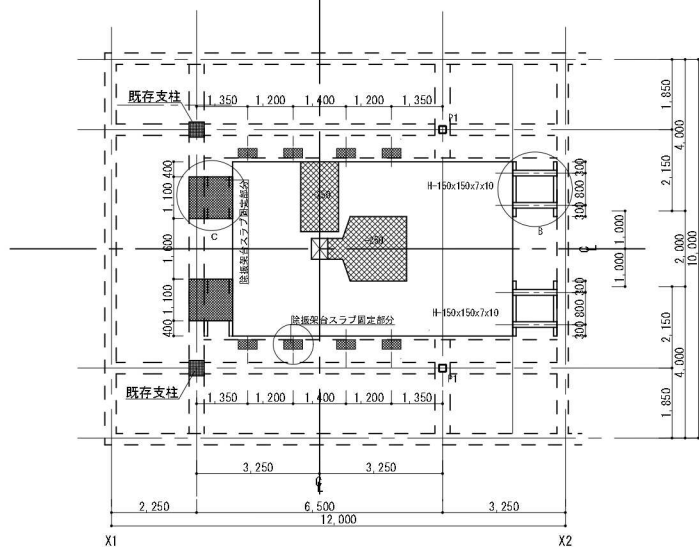
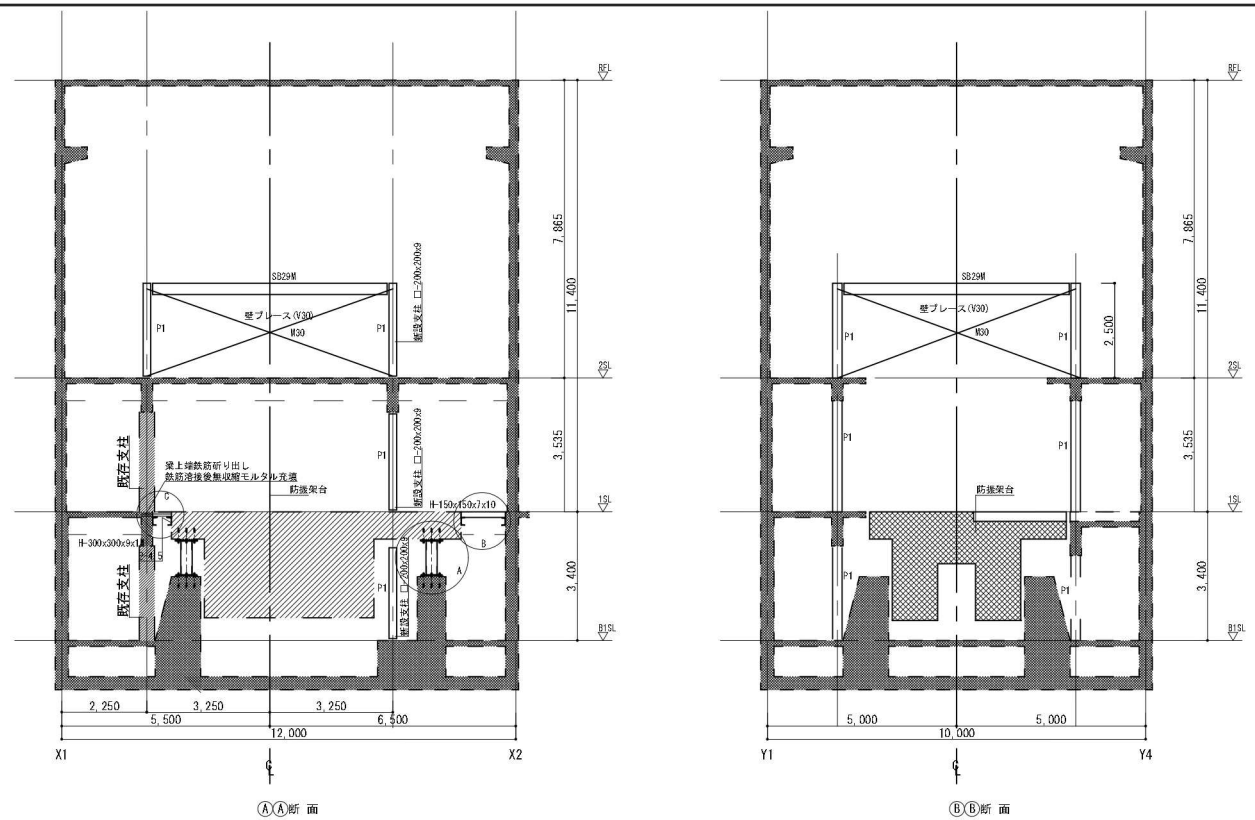
縮 尺






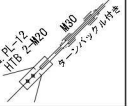

図面番号

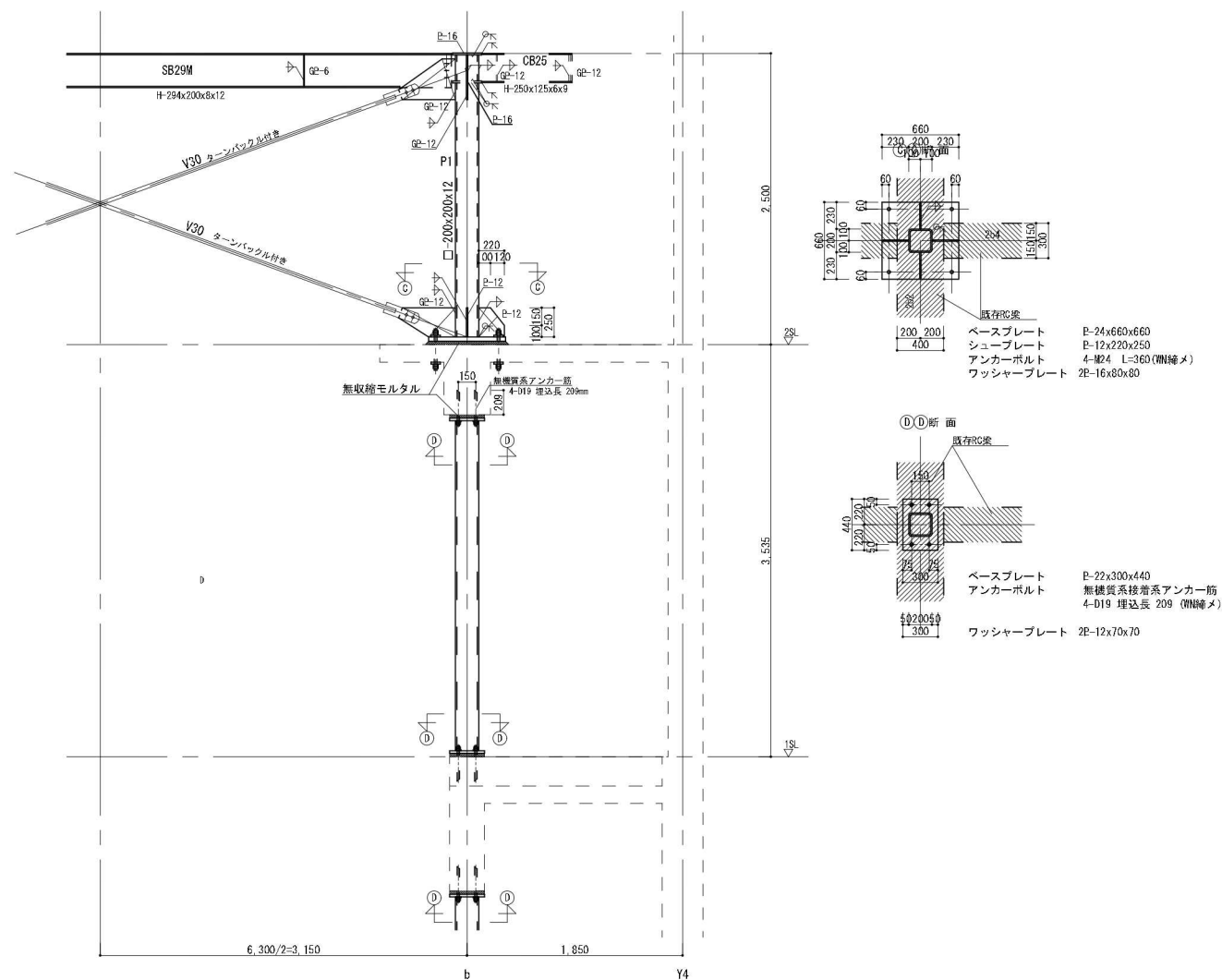
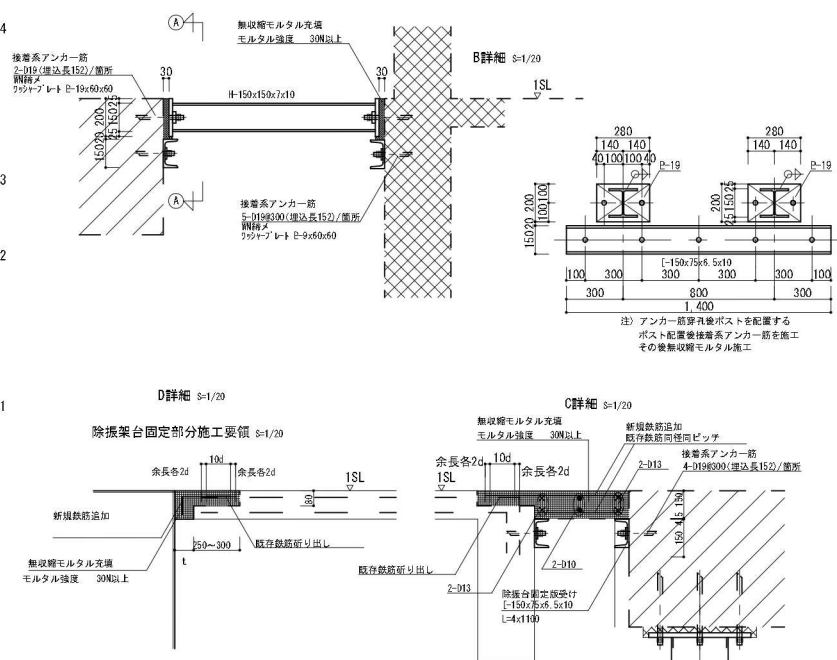
鉄骨構造標準図(2)

NON

A-21



鉄骨部材断面リスト		S=1/20		特記無き取引プレートはSM400Sとする。ダイヤフラムはSM490Cとする。 既製露出柱脚工法とする場合は各工法設計施工標準による。	
符 号	P1				
階	1階				
柱断面					
部 材	□-200x200x12 (R6235)				
ベースプレート	61 既製露出柱脚仕様 (R6)				
アングルト	61 既製露出柱脚仕様 (R6)				
符 号	SB29M	SB20	CB25	根太	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	
大梁部材					
小梁部材					
部 材	H-204x200x8x12	H-200x100x5.5x8	H-250x175x6x5	[75x49.5x7#90	
組 手	F W				
	GR-12 3-M20	GR-6 2-M16		GR-6 2-M12 (巾ボルト)	
符 号	壁ブレース (V30)	屋根ブレース (HV20)			
位 置	全断面	全断面			
大梁部材					
小梁部材					
部 材	W30	W20			
組 手	F W				
	GR-9 2-M20	GR-9 1-M20			



概要図

作成年度	R8
------	----

図面名称	縮 尺	図面番号
------	-----	------

1/200 1/60	A-22
---------------	------